

三商同窓会報



No.49

平成22年7月1日発行

ホームページアドレス <http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/>



平成21年10月4日
日比谷公会堂にて

第18回東京校歌祭のご案内

日時：平成22年10月2日（土）
場所：日比谷公会堂
会費：無料（少額の交通費を支給）
集合：午後2時（少し練習をする）
出演：3時30分頃
集合場所：日比谷公会堂階段の下広場
三商の幟が目印

服装：男性はダークスーツ、
女性はそれに準ずる。
*終了後有志で反省会を行ないます。
(会費は概算4,000円)
100人の大合唱を目指しています。大勢の方の
ご参加をお願いします。

各グループ活動報告

第10期

十期やそじ会

十期 荻野文雄



第七回十期やそじ会は好天に恵まれた平成二十二年五月二十八日、上野の東天紅で開催した。

十二時半、荻野が司会、十期のオーナー・福田猛君の挨拶、上野のれん会会長・木村一雄君の乾杯音頭で開宴。全員に自由に語ってもらった。脳梗塞に罹ったこと、妻を看取ったこと、独居の寂しさのこと、葬儀や相続のこと等々。

人生の終末期のわれわれにとって身につまされる話が多かった。一樣に、学友と再会し日頃の思いを聴いてもらってよかったという感想だった。

特に東京大空襲に遇った持田政雄君の体験談は鬼気迫るものがあった。米軍の爆撃で十万人が亡くなった昭和二十三年三月九日、十日。深川東部の水路が縦横にはしり、材木に囲まれた町の実家が焼かれ、死臭縷々とし、大八車やりヤカーで雑踏するなかを火炎を浴びながら逃げ廻ったという凄惨な被災の話だった。

戦後間もなく発足した十期の集いが今日迄続いているのは、福田君の人望と熱意によるものであり、感謝に堪えない。

二時半、神田明神氏子総代・山田澤三君の手締めで散会した。

出席者 二十名

飯島武敏、石川喜一郎、石丸豊多郎、岩崎 功、加島精四郎、加瀬善太郎、神谷恭正、木村一雄、小池善四郎、小西康義、武市 武、橋本 武、平野欣二、福田 猛、古川 恵一、帆足 誠、松下義雄、持田政雄、山田澤三、荻野文雄

われわれ十期生は、大正十三年四月一日から十四年三月三十一日の間に生まれた。それは大正デモクラシーの結実である普通選挙法が成立する過程でもあった。昭和の戦争の発端となった満州事変が起きた昭和六年に小学校へ入学し、日中戦争が勃発した十二年に三商に入学した。

市電を降り、大島川、古石場川、越中島川を渡った。自転車通学も多かった。軍事教練が正課だった。

太平洋戦争が開始された十六年十二月に戦時措置として繰上げ卒業した。大日本帝国が崩壊した二十年八月十五日

は夫々が軍隊で迎えた。多くの同世代が、南方戦場で餓死し、特攻隊で自爆し、シベリヤの荒野の土となった。われわれにとって青春の記憶とは何よりも戦争の記憶であった。

八十路の旅は、大正生まれの下町育ちらしく、明るく気楽に、激動の昭和を生き抜いた生命力を秘めて堂々と生きたいと思う。

十期六組クラス会

十期 荻野文雄

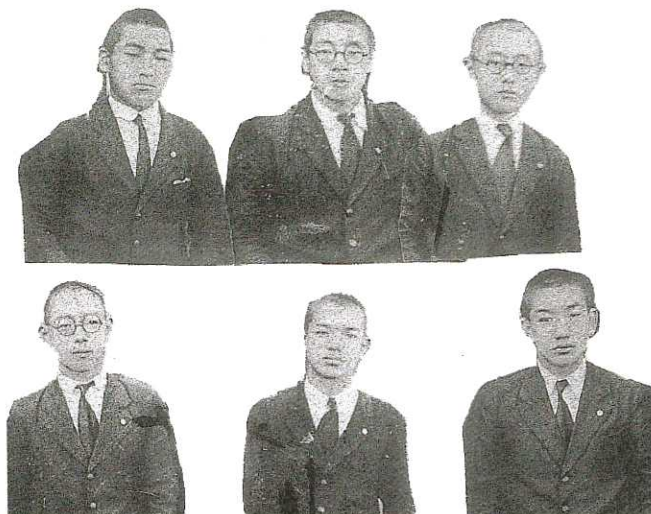
恒例の十期六組クラス会が平成二十一年十月二日、神田一ツ橋の如水会館で開かれた。

会した級友は、石丸豊多郎、太田誠一、木村一雄、森正俊、安村吉之助、荻野文雄の六名。持病を押して取り仕切る世話人、太田君の挨拶、出席者から近況報告、健康を祝して乾杯。

顧みれば第一回のクラス会が開かれたのは太平洋戦争下の昭和十七年春、三菱商事社員・坂田寿朗君のインドネシア石油会社出向壮行会を兼ね、木村与吉、市川任太郎、清田榮一先生をご招待した、柳橋の料亭に於いてであった。級友二十九名が参集した。

霜六十七年、歲月人を待たず 紅顔の青年は白髪禿頭の老翁に成った。夫々が耳・目・足・内臓に疾病を持ち相憐れむ。酒量も落ちた。ビール、ウイスキーの水割り、ジュース。二合の日本酒には手付かず、いささか寂しい。

だが、卒業記念写真アルバムを廻すと、越中島の青春を想い出し、俄然、座が盛り上がる。東京郊外一周遠足、江戸川堤を歩いた国府台の環山荘での授業、習志野庁舎での教練と雨の中を学校まで行進したこと等々。話題は尽きず、笑声が絶えなかった。三時、来年の再会を約して散会した。



10期やそじ会 ～昔と今～

第12期

三萬天寿会

十二期 内藤 登

第五代校長 清田榮一先生は、生前かねがね「人生は三〇〇〇日だ」と先輩達に話しておられたと十期柴田先輩に聞かされていた。

三万日というと、八十二年と五十日になる。八十二に三六五日を乗じると二九九三〇日、閏年の二〇日を加え五〇日を経ると三万日に達する。清田先生は八十四歳で亡くなられた。めでたく日頃漏らしていた「人生三万日」を越えて天寿を全うされた訳である。

我々十二期は、概ね大正十五年〜昭和二年生まれである。萬八十二歳に達するのは平成二十年〜二十一年中ということになる。

真(まこと)にめでたいことだ。『三萬天寿会』という同期会をやる。吉岡鶴義氏が言い出す。

皆さんが同意してくれるならそれで行こう。早速話がまとまった。

前回の同期会は平成十八年十月に開催している。満三年たっている、前回は四十四名が集まった。この歳で三年たつて、果たして何人参加してくれるか？それが問題だ。

早速、同期の菅原金造、岡崎 茂、岩井健三(ともづな会)、河崎三千夫(FG会) 各氏の同意を得られた、大嶽会長もOKである。

開催日は平成二十一年十一月一日(日)と決め会場は前回同様 深川『東天紅』とした。

同期の名簿のデータベースは私のキャノワードに入っている。約百数名への連絡は私の役目となる。以上六名が世話人となった。

ともづな会は十二期卒の中の小グループ、FG会は入学時F組、G組にて、後三〜六組に編入した方々、それぞれ本年度中幹事である方々にお手伝いをお願いした。

前回(平成十八年)は、平成八年版名簿 十二期分三〇九名であった数が、十八年度ではご案内状数一三四通、出席者四十九名に減り、今回のご案内状は一〇四通(三〇名減)で欠席四十九名、消息不明二十八名、物故者は九名増え、実出席者二十七名となってしまった。

当初出席する三十名のご返事が、健康上の理由で当日三名が欠席された。(別表参照)

まずまずの成功! と胸をなで下ろした次第。

あの戦争、敗戦、病苦、不景気を経て七十年。約五人にひとり生き残って来たわけである。

出席の二十七人、多少の足許、口吻の不自由はあっても皆さん一見元氣である。

中にはかの予科練から―出たら還れぬ特攻艇(回天)に志願し生きて還った男、加藤芳司君など飛び出し、あの三商応援歌(一番だけでも相当長い歌詞)を高らかに歌いきり、続いて、海軍出なのに元氣一杯軍歌(麦と兵隊)も歌い上げ、皆を驚かせた。彼は病氣で入院している奥さんの為に病床の枕元で歌って、細君を慰めているばかりか、病院中その高らかな歌声で、歌のオジサンで有名になっているという。敬服に値する爺さんである。

有難いことに、元検事の厳しい肩書きを持つ 岩下肇氏(現弁護士)も出席されていて法の厳肅さ、正義の難しさを説かれ、氏の被疑者に対する情熱を知ることが出来た。

最後に大嶽さんの指揮で「校歌」を斉唱し、なごり惜しい会の幕を閉じたのであるが、皆の元氣な顔を眺めているうちに、七十年前のあの三商生活が蘇ってくる。あの生活は、これからの若者には決して出会うことのない境遇ではないだろうか。そう考えるうちに書き残したいという想いが沸いてくる。

題して『華の十二期懺悔録』である。

三萬天寿会は、三商同期、同窓会に於ける史上新記録

十二期 吉岡 鶴義

今般我々十二期は、昭和十八年十二月卒業以来三年から

四年毎にずっと同期会を継続してきた。卒業当初は井口正夫氏が会長となっていたが、彼は四十余才で夭折、その後を古暮正雄氏が引き継いだ。古暮氏は皆さん御存知の通り三商生え抜きの教師、卒業以来三商一筋の猛者であったし誰からも信頼される同窓会本部の中でもピカ一の立役者であった為、同期生の我々も安心して長年に亘り同期会の運営を委かせて来たのである。処が彼は昭和五十七年頃から体調を崩し入院を繰り返すようになり、同期会も継続する事が困難になってきた。仕方なく大嶽 清氏に後を譲り継続する事となったのである。倅な事に古暮氏時代から熱心に会の運営事務を積極的に手助けして呉れた吉清 勇氏の協力により、その後の会も継続することができたのである。

扱て順調であった十二期会も頓挫する事態が生じたのである。理由は良く解らないが、一つには、大嶽氏が、同窓会本部の改革期に第四代会長を引受けた事にあると思われる。本部の改革は今迄、初代岡田会長から二代都築会長まで無難に進められた事業も実は学校内に同窓会事務を担当する、三商同窓生教職員が多数存在したからであった。然し十九期岩瀬 源氏の定年退職を最後に強力な事務担当者がいなくなつた為である。一部同窓生は、この時とばかり、旧弊を打破せよと唱え出し、従来の理事、評議員のあり方、選出方法等を改革、第三代神谷会長より新理事会、評議員会の 足となった。次いで第四代に大嶽氏を二年の約束で会長として依頼されたのである。大嶽氏も大変だったと思うが、肝心要の十二期会は完全に放置されてしまった。この間約十年余、同期生の中から一体どうなつてゐるかと言う不満の声が聞こえるようになって来た。処が大嶽氏は一向に動く気配なく、同窓会本部顧問として集中するのみ、これは何とか同期会を再会せねばと、岡崎君内藤君等が唱え出し当方も一緒に準備する事になったのである。然し乍ら十年間も放置された同期会を再会するには、今迄の資料が必要であった。大嶽氏は事務的作業は全て吉清氏に委せていた為、今度は吉清氏に連絡すると、脳卒中で入院中、行き詰まってしまった、然し吉清夫人の協力もあつてやっと資料を取得数回の準備委員会を経て八十歳を記念し傘寿会を開催することができたのである。傘寿会については、三年前同窓会報に報告済であるから割愛する。今回の三萬天寿会は、昨年八月故、古暮正雄氏七回忌が蔵前西

福寺で行われた際、我々十二期生の菅原、内藤、岡崎各氏と小生、四名が参加、席上で十二期会開催の話がまとまり、その準備会を十月四日、本会場である東天紅深川支店で行うこととなった。メンバーは前期四名は大嶽氏 F



G会河崎氏、友綱会岩井氏の七名としたが、当日大嶽、河崎両氏は所用で欠席、残る五名のメンバーで準備が進められ、十一月一日、遂に三萬天寿会を開催する事が出来た。三萬天寿会ネーミングの意味は、前述、内藤氏の記載通り、誠にお目出度き限り、周囲の誰よりも我々自身、よく頑張つて生き長らえたとお互いの健闘を喜び合うことが出来たのである。

会の進行は順調に運ばれ、参加者全員の自己紹介最後は大嶽氏の本メ、参加者二十七名の記念撮影をもって終了することができた。終了後、考えて見ると、三商同窓会創始以来、八十三才まで同期会を継続した期は存在しない事に気付いた。第十期の先輩方は先般クラス会として催された話は聞いたが、同期会全員ではなかった様子。やはり我々が新記録ではなからうかと自我自讃している次第である。更に次回も記録更新の話はあったが、今の所、その企画は無い。後輩諸氏の奮起を期待して筆を置く。

第17期

行事報告

十七期 飯田 幸男



十七期も大半がいよいよ「傘寿」を迎える。機械でも八十年間動き続ければどこか故障が生じる。会員あるいは伴侶の殆んどが「無病息災」は難しく病を抱えながら日々をすごしているのが現状である。したがって諸行事の出席率も低下をたどっている。ますます今後の行事を考慮する時期に来ている。

行事報告

◎一泊旅行

平成二十一年六月十五日恒例の箱根へ「仙石原R&Sホテル箱根小塚山」に一泊。参加人員七名。と旅行会として過去最低の参加であった。それでも白濁した温泉に浸かり夕食後はカラオケ。その後は幹事部屋深更まで三商時代の思い出話しにときを忘れて話し込んだ。

◎校歌祭

平成二十一年十月四日(日)於日比谷公会堂。昨年同様十名。今年は日曜日開催も参加者減少の一因か。当初不参加の予定の鹿倉兄が登場。校歌、応援歌を声高らかに歌い反省会にも出席。旧友と歓談。再会を約して散会。この一ヶ月後に急逝するとは。今にして思えば病を押して「皆に会いに来たのだ」と感無量である。

◎忘年会

平成二十一年十二月六日。例年通り三菱養和会巣鴨パルテールで。参加者十三名。忘年会だけは参加を決めている会員もいる。六月に亡くなった片野兄、過日急逝した鹿倉兄の冥福を祈り黙祷を捧げた後、開宴。参加者はこの一年の無事を喜び来年の息災を祈りながら歓談。校歌を大合唱してお開きとした。

◎グルメの会

平成二十二年四月四日(日)、フランス料理「パリの朝市銀座店」で。例年春はお花見を恒例としてきたが、桜の開花の予想が難しくここ数年タイミングが合わなくて幹事が苦労してきた。そこで今年「グルメの会」を催した。珍しい企画のせいか、参加者十六名と予想外に多く好評だった。散会后、銀ブラを楽しんだ諸兄が多いと聞いた。

◎訃報

片野昌治兄 平成二十一年八月九日付けの奥様からの手紙により同年六月十六日に長年脳梗塞の病にて療養中のところ急に肺炎を併発し永眠された由、体が不自由の時でも会報や行事案内を嬉しそうに読んでいたとのこと。義母の「片野さださん」(戦後NHKで三味線の名手として活躍された)の眠る日蓮宗総本山大石寺に納められた。

鹿倉謙蔵兄 平成二十一年十一月前立腺で入院を繰り返していたが急変逝去された。校歌祭に飛び入りの形で参

加、周囲を驚かしたわずか一ヶ月後に亡くなるのは、小生はじめ級友一同信じられませんでした。十七会の重鎮であり、何事にも真面目で特に校歌祭については参加人員一〇名達成を念願としてきただけに、遺された我々としても同窓会校歌祭委員と協力して今年こそその目標が達せられ鹿倉兄が永眠できるよう努力しよう。謹んで、お二方のご冥福をお祈りいたします。

第20期

三十年前の同期会を想う

二十期 河原啓介

平成二十一年十一月一日(日)正午より、交通に便利な両国ベルグラウンデにて、二十期同期会を開催いたしました。出席は全国から七〇名が在学当時の懐かしい写真を持ちより、楽しい青春時代にタイムスリップしたひと時を過ごすことが出来ました。来賓として、ご多用の中を同窓会会長柴崎晴雄さんが駆けつけていただき、同窓会と学校の現況についてスピーチをいただきました。又、各テーブルごとに、又、希望者のショートスピーチをいただきました。

今までで始めての日本料理にいただきましたが、十年前と比較して、年令と共に食事、飲み物の量も少なくなっています。大変好評でありました。

二十期の特長は、幹事の方々がボランティア精神が旺盛の方々で、又、女性会員同志で連絡を密にしていたらいており、参加も比較的多く、ありがたいと思っております。

今回の開催にあたり幹事会を二回行うことで、当日のスムースな運営に役立っております。次回は二十三年の開催を予定しております。

同窓会の運営にかかわる評議員には、菅波良司さん、岡輝彦さんが参画いたしております。私ごとですが、永い間同窓会、三商会などと、参画させていただき、皆々様から特別のご指導を賜り感謝の気持ちでいっぱいでありま

在学中も卒業してからも、今村直人先生、清田栄一先生を始め多くの先生からご指導をいただきました。又、下町には三商の先輩も多く、社会奉仕団体や東京商工会議所の会合などでお会い出来る人が多くいらっしゃいます。五期森茂男様、十期石丸豊多郎様、十二期木村秀司様、鳥井徳夫様、西川光男様、十五期永野章一郎様、二十一期浅野修一様、二十二期上原隆様ほか多数の三商卒業生がいらっしゃいます。大変お世話になっております。母校三商が益々発展する様に同窓生で努力してまいります。



前列中心に今村直人先生清田栄一先生を始め15名の先生もいらっしゃいます。昭和53年5月25日 三商二十期同期会 於 芝公園レストランパークヒル

第23期

同期会

二十三期 飯島雄三



二十三期同期会が二年ぶりに開催された。平成二十二年三月十四日(日)上野池之端東天紅にての開催である。ここ東天紅での開催は、平成十八年以來二年毎の開催であり、すっかりお馴染みの場所になった。

定刻十二時に元NHKのアナウンサーであった小堀信夫君(三組)の司会で始まり、お世話になった先生方及び同期生の物故者に対する黙祷を捧げ、続いて代表幹事の鈴木進輔君(二組)から開催にいたる経緯と各組幹事の皆さまのご協力に感謝の意の挨拶があった。

続いて本日来賓として唯一ご出席いただいた恩師、当時七組担任であられた山田先生が壇上に上がられ会場を見渡して、開口一番「この壇上から見ると、老人会へ来ての挨拶のように見える」であった。山田先生も昭和二年生まれの八十二歳になられるが我々同期生と見間違えようのないお姿であった。そして田中公太郎君(六組)の発声で乾杯、セレモニーはこれで終了し、昔懐かしい顔ぶれの仲間との歓談に入った。

今回は新しい企画として、当時の同じ部に所属していた仲間が壇上上がり、紹介され昔の部活動を思い出してか握手する者、肩を叩き合う者など懐かしいふれあいの場が生まれた。

今回の出席者は九十三名と会を重ねる毎に減少傾向にある。これも経年と共に健康上の理由、又この日を待たずに鬼籍入りする人など、寂しいことである。

それでも九十余名が一堂に集い昔の仲間とのひと時を過ごせた事は誠に幸せな一日であった。

写真は全員での撮影が無理なのでクラス毎の撮影となり、ここに掲載の写真は七組の山田先生を囲んでの物にさせて頂いた。

最後に星野 隆君(二組)の指揮、木島栄次君(三組)のハーモニカ伴奏で校歌を声高らかに合唱し、二年後に元気な姿で再会する事を約し、三々五々と二次会の席へと移動した。



第25期

同期会開催、

親睦と収穫

二十五期 安藤庄市



東京都立第三商業高等学校 第25期生 第11回同期会
平成21年11月23日 於 東武ホテルレバント東京

平成二十一年初冬、第十一回目の同期会が次の通り東京で開催された。

会次第

- 日時 十一月二十三日(月) 十一時
 会場 錦糸町・東武ホテルレバント東京
 出席者 九十七名(内、先生二名)
 司会 初芝雅敏・安藤庄市
- 一、全員黙祷
 - 二、開会の辞 井上嘉久
 - 三、写真撮影
 - 四、恩師の辞 二人
 - 五、乾杯
 - 六、懇談
 - 七、恩師の近況報告 岩永、中川両先生
 - 八、有志の近況報告 五人
 - 九、同窓会の近況 会長 柴崎晴雄
 - 十、校歌、応援歌斉唱
 - 十一、閉会の辞

曇り空では有ったが、錦糸町の空は明るい。会場のホテル三階龍田の間には、懐かしい友や恩師が懇談されている。「人生七十古希稀なり」七十歳の長寿を祝い、来し方、未来を語りあうことは、意義深いことである。

初めに、逝去された恩師・友人を偲んで〈黙祷〉を捧げ、〈開会の辞〉の後、スタジオで全員の〈記念撮影〉が賑やかに行われる。

飲食・懇談で華やいていると〈恩師の近況報告〉。岩永先生——入院したが現在は治った。良かったら府中に遊びに来て欲しい。中川先生——会えてうれしい。君達は俺より先に死ぬな。五〇年先を見て生きろ——お元気で安心する。出雲先生など事情でご欠席されたのが残念。

〈有志の近況報告〉

- 一、山辺茂夫さん——卒業後七年で電気店を開業。数年して引退後は、準備を広げ仲間を増やす。
- 二、長岡富市さん——多磨霊園で宮脇先生のお墓参りをした。友人四人と行って先生を偲んだ。
- 三、その他三名程の方がご活躍ぶりを披露して下さい。

〈同窓会の近況〉が、会長の柴崎さんから有り、会合や会報への参加を呼びかけた。

続いて〈校歌・応援歌斉唱〉塚本純子さんの指揮で熱唱。歌どおり、都の栄えを江戸の誇りを継げるわれらで有りたい。司会から、「次回の同期会担当は一組に引継ぐ。」と報告があった。最後に〈応援音頭と一本締め〉が中村圭介・山中通生両氏の指揮の下、全員が拍手して、二時間半、盛会裡に終了した。

【結び】今回の開催準備と会合回顧

- 一、準備——担当八組の幹事長・石川昭さんの下、四回の準備会、二回の同期各組代表との会合で案を練り、無事終了。
- 二、反省——会場は良かった。友人のスピーチに、もう少し集中して欲しかった。
- 三、回顧と今後の希望 貴重な青春を共に送った友人達。その各人の過去から未来までを語りあい、安らぎ、励まし、学びを得られた。また開いて欲しい。最後に石川氏始め役員幹事各位に感謝します。

同期会に寄せて

二十五期 井上嘉久(陸上競技部)

この度私どもは七十年という節目を迎えた。「人生七十古来稀」と云われたのは何時頃のことであろうか。現代では、差し詰め鼻垂れ小僧にチョッピリ毛の生えたようなものではないのか。

今回で十一回目を迎えた同期会。昭和三十三年(二十五期)卒業以来、よく続いたものである。世話役の幹事は、各クラス持ち回りで、正にチームプレイの賜である。会には、何時もお二人の恩師がご出席下さっている。大変に喜ばしく、感謝の念でお迎えしている。何えは八十半ばのお歳とのこと。何か一つの枠で括れそうな身近に感じられ、これも又、嬉しい事の一つである。どうぞ何時迄もご健勝であれ。

七十年、各々様々な道程の中で、青春時代に同じ学舎で同じ時代の空気を吸った事実は、何事にも代え難い真に尊

い宝物である。同期会が、その尊い薫りを留める限り、何時迄も続いてほしいものである。

古稀メモリアル同窓会の

写真を眺めて思うこと

二十五期 平山朝夫(簿記部)

中川先生を中心に三年五組の面々、先生を散々手こずらせ悩ました獅子達のタイムスリップした勇姿！皆若かった懐かしい昭和！昭和！昭和！東京下町の薫りがブンブンしてくる。半世紀経った今もその特性を維持し不思議な団結を誇る。中川先生の日も童心に還ったようで嬉しそうだ。そして当時きわめて貴重な存在であったマドンナ達の消息に突然、座が盛り上がる。時は経っても希少な貴重な存在なのだ。

おすましてポーズを取る四人組は左から平山、高木、仁平、広田の簿記部メンバー。ネクタイ姿はどこか小津安二郎監督作品映画の世界とだぶる・・・

どこか生真面目で、笑顔が控え目なところは生きた時代の反映か？

さすがに七十余の年輪は隠せないが、老いてはいない。目が光っているのは、昭和の日本、世の中の繁栄を支えて来たのだとの誇りと満足感の表れだ。写真を見渡してあらためて感じた。東京大空襲の火の手から逃げ回った幼い日から、それなりのしあわせに到った縮図が映っていた。

人生に感謝！有り難うございました！



第26期

生涯青春

二十六期 古田勝一



昨年は二十六期の仲間のご支援とご協力により、三商・草創期にゆかりのある帝国ホテルで卒業五十周年記念の同期会を盛大に開催することが出来ました。

顧みまして昭和三十四年、あの懐かしの「時計塔の聳える校舎」を四七二名で卒業致しました私共二十六期生は、社会情勢の幾多の変遷・波濤を乗り越え本年度は古希(七十歳)を迎えます。

通算二十二回目の同期会はくしくも「古希」記念となりました。

各クラス(一組〜九組)が当番制で幹事を受け継いでおりますが、今年は二組の当番でしたので代表幹事には亀卦川幹雄さん、亀卦川富士枝さん、金浜靖子さん、清水博さん、高橋一郎さん、山崎征夫さん、保田正さん始め二組の方々により取りり切っていたいただきました。

平成二十二年六月十九日(土)十二時、於・八重洲富士屋ホテル赤松の間、卒業生四七二名(物故者四十六名、住所不明者一〇八名、住所判明者三二八名)の内、九十五名程の参加を頂き、稲田宏先生のご臨席を賜りました。司会の山崎征夫さんよりの物故者への黙禱に始まり、開会の辞・世話人挨拶・来賓挨拶・会計報告・乾杯と続き、歓談にと移りました。今回は「古希」記念の特別な会になりましたので、昨年の五十周年記念にもバンドがはいりま



したが、今年は幹事長の亀卦川幹雄さん(スチールギター)がリーダーを務める法政大学OBバンド「カントリー・レンジャーズ」に会場を盛り上げていただきました。ペー

ス・ドラム・エレクトリックギター・ボーカルの七人編成での華やかな演奏でした。

各クラス別記念撮影・校歌・応援歌斉唱と続き、応援歌終了時には清水博さんが昨年同様渾身の応援団長ぶりで赤松の間も割れんばかりの全員での「フレイ！フレイ！三商！フレイ！フレイ！三商！」のエネルギーで包まれました。そして高橋一郎さんの閉会の辞で無事終了。

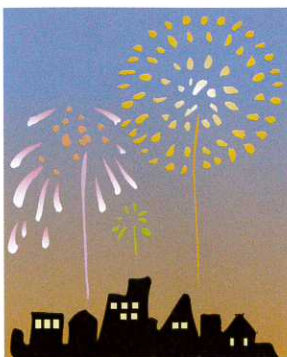
あの三商で青春時代を謳歌した男の子(おのこ)女(めこのこ)の子が、ココに七十歳にならんとする今、皆で「都の空は明けたり今…」を声高らかに合唱出来ます事は何と素晴らしいことでしょう。

当日はサッカーワールドカップの真っ最中で、その夜は対オランダ戦も控えておりましたが、亀卦川幹雄さんよりタイムリーなサッカーグッズ(JFAマーク入りのクリアファイル)の沢山入った素敵なバッグを参加者全員に寄贈されました。

この度の「古希」記念の同期会は幹事長の亀卦川幹雄さん・亀卦川富士枝さん御夫妻の並々ならぬ物心両面での御尽力、そして同窓会事務局長の杉本光男さん、同窓会副会長の岩瀬和子さんの側面からのいつもながらの御協力のお陰で盛大に悲無く挙行出来ました。本当にありがとうございます。

私は毎年開催の二十六期同期会での挨拶で必ず『生涯青春であり続けたい！』と吠えています。お決まりのワンパターンのフレーズですが、誰に何を言われても気にしません。前進あるのみです。これより先：傘寿(八十歳)の会に向け、青春を謳歌して参りたいと存じます。

生きている限り：感動の人生を味わう為、これからも吠え続けて参ります……。



第27期

同期会の集い 五十周年記念

二十七日 辻井正巳

桜前線は北上し、東京周辺は桜吹雪の中、上野不忍池のほとりの東天紅において、第四回の二十七日同期会が開催された。幹事諸君は御多忙のなか、四ヶ月前から入念な打ち合わせ会を数回行い、完璧を期した。中でもリーダー役の岩崎はつ代氏（金子）は先天的能力を発揮し献身的に事業活動を遂行し、彼女なくしては同期会の開催は難しかったであろう。ご尽力に感謝する。

十三年前の住所録を参考にしての新同期会名簿の作成には、大変苦労したが、七割強の方の住所が確認出来た。

担任の先生方は残念ながら殆どお亡くなりになられ、存命の先生は高齢の為、長時間の行動は無理とのこと、ご招待はしないでゆっくり休んで頂く事にした。当日の式次第は次のごとくである。

平成二十二年四月十一日 午後四時開会

参加人員 一三五名

開会の辞・司会進行 森 達夫、鳥井充子

挨拶 岩崎はつ代

乾杯 辻井正巳

閉会の辞 秋山浩巳

右記の役割分担で同期会は盛会の宴を発進する。

心配された天気は日頃の行いがよいせいか、快晴に恵まれ、桜吹雪の中、盛大に行われる。広い会場では各クラス毎にテーブルに分かれ、非常に豪華な雰囲気、隣席との間もゆったりで最高の気分。

森君の名司会で会は始まる。中には五十年ぶりの人もいれば、あの人誰だっけなんて言う人もいて、和気藹々とした時は過ぎて行く。誕生日前の人には六十八歳、迎えた人は



ではなかったようだ。

明日にでも会いたい、明後日にでも会いたい、そんな感慨と興奮が場内を包む。幹事の諸君どうも有難う、こんなに素晴らしい会久しぶりだよ、来年もまた頼むよ、励ましと応援の声は各所で囁かれる。

卒業以来五十年の歳月はこんなに人を懐かさせしめ、こんなに哀愁を帯びるものなのか。七十歳近くなつての年齢的のものなのか？つまらない詮索はやめよう。

名残惜しい中閉会の時となる。上野の夜の街に二次会の場所を求めて、三々五々散り行き、街中は同期の桜の宴と化した。私達は二十人位の仲間でカラオケ店に入る。メンバーはごちゃごちゃだ。歌の旨い人、そうでない人、アルコールの強い人そうでない人、場内は最高潮に達する。あつという間の二時間、ここもそろそろお開き。

夜が更けるのも忘れて、数人で三次会に・・・ふと時計を見ると、日付が変わっているではないか。よくもまあこんなに長時間飲んで、語ったものだと我ながら感心？する。帰宅の車中ではほろ酔い気分です居眠りも。

一週間後には幹事の慰労会が設けられ、素晴らしい同期会であったと異口同音の声が。

全体的の流れとしては、早めの次回を期する人が多く、検討の結果、二年後に第五回目を開催することに決定する。楽しみが増えたぞと、そんな気持ちで一杯である。

同期会に出席してくれた一三五名の皆さん、各クラス幹事の皆さんどうも有難うございました。

第54期

同期会開催報告

五十四期 北代 淳子



平成二十二年四月二十四日(土)午後六時半より 両国「ザ・ホテルベルグラnde」にて、五十四期同期会を開催致しました。同窓会副会長の岩瀬さん、事務局長の杉本さんのご協力により開催に至りました。

同期会が、二十一年ぶりとなり結婚されて名字や住所が変わった方が、殆どで案内が届くのが厳しい中でしたが先生方五名、同窓会役員の方三名を合わせて四十八名の出席となりました。

次第にそつて司会の根岸さん、大久保さんが進行を務め、開会の辞を私北代が、同窓会副会長の土方さんのご挨拶、学年主任の柘植先生のご挨拶と乾杯で、賑やかにしばし歓談となり、竹石先生、関根先生、安本先生、真柴先生、同窓会副会長の岩瀬さんご挨拶を頂きました。

先生方からの楽しいスピーチの中で、柘植先生の在学中三年間の思い出話で、九十九里に行った話や、九州の修学旅行の話、真柴先生の簿記の替え歌などで会場は盛り上がり、二十三年ぶりに校歌と応援歌を歌いました。

全員で記念撮影をし、最後に三本締め代わりに、千葉さんが「フレ、フレ、三商」のコールで三商ならではの最高の締めとなり、盛会に終わりました。

久しぶりの再会に、懐かしく楽しい時間が過ぎたとご出席された方から、声が寄せられました。

皆さんの元気な姿と笑顔で、誰もが更なる活力になったと思います。

私たち四十代はめまぐるしい生活や社会の中で大変ではありませんが、健康で、又元気に同期会でお会いできればと思います

お忙しい中ご出席された方々有難うございました。

同期会開催にあたって

同窓会副会長 (二十六期) 岩瀬 和子

同窓会事業計画の一環として、若い期に同期会を開催してもらおうと、昨年評議員さんからアンケートを取りました。その中で開催したいと思っている評議員さんに連絡をとり、昨年六月二十七日同期会開催推進の打合せを行いました。

した。当日は五十四期、六十七期、六十八期、三十七期(資格外)の七名が出席されました。

諸費用は同窓会で負担し、お手伝いするので是非開催してほしいとお願ひしましたが、各期とも名簿がなく困っていました。たまたま五十四期の評議員 北代さんと親しくしているのので、ぜひ開催してほしいとお願ひしたところ、名簿もないしどうやっていいかわからないと云われてしまいました。日時を決めてくれればあとは全部やってくれるからと云つて、やつと開催の運びとなりました。

四月二十四日(土) 両国の「ザ・ホテルベルグラnde」会費五千円で開催することになりました。

全部やつてあげると約束したので、まず名簿作りから取りかかりました。

七十周年に発行された会員名簿と母校の同窓会室にあった卒業生名簿を基に作成することにしました。会員名簿は五十音順で郵便番号が三桁、郵便番号を七桁にし、卒業生名簿と照合し会員名簿の住所と改姓された人の訂正をしました。

事務局長の杉本さんに名簿、宛名シール、同窓会長の挨拶状、開催案内状、返信用のハガキ、封筒を作成してもらいました。残っていた同窓会報を入れ、九名の先生として同期生四一二名にヤマトのメール便で発送しました。

その内一四二通(先生二通)が返送され、その後住所が判明し九通再発送しました。

当日出席者は先生 五名 同期生 三十八名 同窓会役員 三名でした。二十余年ぶりで行ったとのこと、卒業以来会う人が多く、大変盛況でした。

今後は同期会役員さんを中心に開催しようと話が出ていました。是非他の期の人達も申し出て下さい。協力致します。



第77期

七十七期生と懇談会

四十八期 渡邊 秀明



三月六日(土) 母校卒業式のあと、卒業生(七十七期)クラス代表と同窓会役員とで今回初めて昼食をとりながら、懇談をいたしました。同窓会からは、会長をはじめとする役員が、母校での思い出や懐かしい旧校舎、お世話になった先生方などの話をする、卒業生は熱心に耳を傾けていました。

また、卒業生からも、母校での思い出や厳しかった就職活動、卒業後の抱負、同窓会への質問などが活発にされました。

最後に七十七期の評議員を三名選出し、クラスの代表と同窓会活動のために連絡を取り合うことを確認して、お聞きとなりました。これから同窓会活動がますます活性化することを感ぜさせる楽しいひとときでした。



本年度入学生から、制服を変更しました。

§ 定時評議員会報告 §

平成二十二年五月十五日（土）午後五時より、母校都立三商会議室に於いて、平成二十一年度の年次定時評議員会が開催されました。

同窓会の機関運営が、新体制移行後十年目にして、この日、母校会議室での初の開催地としたことは、同窓会の最高議決意思決定機関を「総会」から「評議員会」へ発展的改革に至ったことでもあり、いわゆる評議員制を構成してきた意義の深さもありました。

議事の進行は会則にしたがい、事務局より、本日の出席者数が会則規定の定足数を満たしており、本会議の評決には問題なく成立している旨の報告があった後、出席評議員中より、小林慎典評議員（第二十八期）が本日の議長に選出され、直ちに議案の審議に入りました。

「本日付議された議案及び審議の経過」

第一号議案 平成二十一年度事業報告承認の件

本件は、総務委員会を代表して、土方副会長より平成二十一年度の事業報告について詳細な報告があった。懸案の活性化活動（コーディネート）の実績、加え、「同窓会マップ」の発刊も終えたこと等を含めて、議長が賛否を議場へ諮ったところ、多数の賛成を得たので、本議案は可決された。（否決者なし）

第二号議案 平成二十一年度会計報告及び監査報告承認の件

本件は、渡邊会計担当理事より、予算額と執行額の内訳を勘定項目別に詳細に説明があった。

特に当期には都立商科短大同窓会「紫水

会」より、格別の寄付金の支援を得られた経緯が述べられた。

次いで監事を代表して古田監事より、監査結果が正確かつ適正であったことの監査報告があった。よって議長が本件の承認を議場に諮ったところ、多数の賛成を得たので本議案は可決された。（否決者なし）

第三号議案

役員全員任期満了により改選の件

議長より、現任の理事全員十五名並びに監事三名全員、予め各期より選出されている評議員各候補者（予め配布されていた理事・監事候補者記載の名簿）の内から、候補辞退者等の修正削除について読上げた後、今評議員会の終結の時を以って任期満了となるため、改選を要する旨の説明があった。まず監事三名の改選につき、賛否を諮ったところ、賛成多数（否決ゼロ）をもって三名とも再任され、承認可決。

次いで、現任理事の内、河原啓介理事を除くほか、十四名が再任の承認を議場に諮ったところ、多数の賛成を得たので、改めて会長、副会長、事務局長、会計担当理事の役割分担の互選のため、五分ほど議事の休憩に入った。議事再開後に、役割分担は前期どおりとし、副会長として新たに田端彰理事が増員選出された。

第四号議案

平成二十二年事業計画案承認の件

本件は、杉本事務局長より本年度の事業計画案として、詳細に提案された。殊に前年度に引続き、母校支援活動と共に同窓会活性化活動（同期会開催のコーディネートに重点を置く）に鋭意務めることとして、事業計画案を議場へ諮ったところ、多数の賛成を得て（否決ゼロ）本件は承認可決された。

第五号議案 平成二十二年会計予算案承認の件

本件は、会計担当の渡邊理事より、前年度予算執行額と、今年度予算額の数値比較及びその事由について詳細な説明がなされた。質疑があった後、議長がその賛否を諮ったところ、絶対多数の賛成（否決ゼロ）を得たので、本件は承認可決された。

「その他の持寄り議題」

前年の評議員会に次いで、今回も（財）東京三商会関連の質疑が行われた。財団の原資、存在及び目的、さらには現状及び課題等につき、質疑があった。さらに要望事項として、財団に関し、一定の方法で開示（ディスクロージャ）することにも意を注がれたとの発言があったので、左記の通り、現状での活動の概要を説明した。

- ① 目下のところ新公益法人制度（平成二十年十二月一日施行）に準拠した組織運営の適正化を推進する必要があること。移行認定の審査に向け、「認定法」に適合すべく要求事項の内容理解を深める目的で、定期的な勉強会に取り組むこと。
- ② 公益目的事業の定義及び機関としてのガバナンスのほか、経理的な基礎マニユアル等の構築、定款自治の方向性等、課題が山積しており、遅滞なく移行申請手順を計画化すること。
- ③ そのためには起業の精神をもって専門的作業を要することから、いずれ予算付けの費用が必至となること。

以上のように、果敢な質疑が行われたことにより、この日の評議員会における総ての付議事項の審議が滞りなく終了したので、閉会宣言が行われました。

（審議終了時刻 午後六時二十六分）

平成21年度会計報告及び22年度会計予算

(単位：円)

平成21年度 会計報告 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)			平成22年度 会計予算 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)		
項 目	21年度予算額	21年度執行額	項 目	22年度予算額	備 考
前年度繰越	10,230,411	10,230,411	前年度繰越	10,237,148	
(収入の部)			(収入の部)		
会費(77期)	1,710,000	1,620,000	会費(78期)	1,610,000	
運営協賛金	0	40,000	運営協賛金	0	
利息他	5,000	2,941	利息他	3,000	
※雑収入		500,000			
収入合計	1,715,000	2,162,941	収入合計	1,613,000	
(支出の部)			(支出の部)		
理事・評議員会	200,000	210,247	理事・評議員会	200,000	
総 会	0	0	総 会	200,000	
新年会	50,000	24,000	新年会	50,000	
校歌祭	150,000	176,385	校歌祭	200,000	
同窓会報	400,000	424,806	同窓会報	400,000	
活性化活動費	200,000	466,703	活性化活動費	1,400,000	同窓会マップの発行
母校部活支援	200,000	143,703	母校部活支援	200,000	
就職活動支援	80,000	70,995	就職活動支援	100,000	
母校支援	100,000	96,212	母校支援	100,000	
卒業証書入れ	120,000	101,223	卒業証書入れ	120,000	
会合費	200,000	188,700	会合費	200,000	
慶弔費	50,000	48,750	慶弔費	50,000	
通信費	20,000	2,640	通信費・事務費	60,000	
事務費	40,000	1,000			
支払手数料	5,000	840			
特別会計予算	200,000	200,000	特別会計予算	200,000	
支出合計	2,015,000	2,156,204	支出合計	3,480,000	
(繰越の部)			(繰越の部)		
前年度繰越	10,230,411	10,230,411	前年度繰越	10,237,148	
当期収入	1,715,000	2,162,941	当期収入	1,613,000	
当期支出	2,015,000	2,156,204	当期支出	3,480,000	
次年度繰越	9,930,411	10,237,148	次年度繰越	8,370,148	

※都立商科短大同窓会「紫水会」よりの寄付金受入れ分

平成21年度特別会計(周年記念事業)		平成22年度特別会計(周年記念事業)	
前年度繰越	253,061	前年度繰越	453,309
一般会計(77期会費)	200,000	一般会計(78期会費)	200,000
受取利息	248	受取利息	1,000
収入合計	200,248	収入合計	201,000
支出合計	0	支出合計	0
差引次年度繰越	453,309	差引次年度繰越	654,309

縦務委員会勉強会

二十九期（縦務委員長） 土方敏之

平成二十二年二月二十日、母校会議室にて「東京三商会について」と題して勉強会を開催しました。これは近年東京三商会の運営について、財団法人がよいのか、役員は今ままでよいのか、等々周りの人の声が多く発せられ、再考するには内容をよく知らなければいけない、との考えで、過日この件について、東京都の担当部署に伺い、話を聞いてきた三浦副会長に参加して頂き、共通の認識を持つと企画致しました。

最初に会長より財団法人で行けるのか。それとも改組なのか聞きました。これはこれからよく考えて行く問題であり、大変な作業が必要になるので、もう少し研究して行く事になりました。

続いて、古田さんより東京三商会の歴史を聞きました。内容は八十周年記念誌等に記されてありますのでご一読下さい。

次に三浦さんより東京都との話し合いの様子を伺いました。

そして総務委員会の結論として理事会に諮り同窓会の意思を統一すべきに至りました。

次に当日まとめました意見は
一 東京三商会の歴史を考え、学校主体の運営を同窓会主体に変えてゆく。

一 第三条の目的の中にある育英奨学金は、授業料無料化に伴い、必要なくなるのか解らないが、次の目的である「三商の教育の振興を支援し、同校生徒職員同窓生の交流と連携を深め、もって商業教育の発展に寄与する事」があり、いろいろ活動が考えられます。

一 都の担当者によると「東京三商会」が学校内にある事はおかしい。教職員に負担をかけるのはいけない。財団法人の仕事はしてはいけない。外部での運営が理想的である。

ある。そして存続に関して「学力、質的向上に努めれば三商は続く」と言われたそうです。右のように東京都の考え方に従いよりよい方法を考えなければなりません。本年はその第一歩として、東京三商会の役員に若くて動ける人を送る事が必要と致しました。



「同窓会の楽しみ方Ⅲ」

三十一期（同窓会副会長） 三浦康二

本年の私達母校都立三商の卒業生は、三月六日に第七七期生として男子二九名、女子一三三名で合計一六二名が未だの同窓会を背負って、それぞれの分野に勇躍として巣立っていきました。必ずや素晴らしい同窓生となって、これからの母校を支えていく事と思います。又四月七日には、入学式が行われ、二一二名の新入生が、夢と希望に胸をふくらませて第八十期生として入学を致しました。

「後輩の成長こそ先輩たちの勝利」です。負けじ魂で、立派な三商生に成長していただきたい事を先輩として、皆で見守り応援をしてみたいと思います。

本題の「同窓会の楽しみ方Ⅲ」ですが、ここでは同窓会とは、クラス会や同期会の事を云います。今や現代では社会人サークルやインターネットでのSNSが発達して、誰でも気軽に仲間が作れるようになりましたが、そんな中で「同窓会」が静かなブームになっています。それではその魅力とは、

①「タイムスリップ」の楽しみ



学生時代に、ともに勉強して運動して遊んで仲良くなったり、ケンカしたり、一緒に帰ったりと同じ教室で同じ日々を過ごした同級生たち、このころは学校が世界のすべてでした。顔は覚えていなくても教室の空気感が心が覚えているはず。そんな学生時代に皆で一緒にタイムスリップ出来るのが「同窓会」なのです。昔なら昔ほど、よりタイムスリップ感を味わう事ができるでしょう。そして昔に戻って、あのころのあなた、あのころのクラスメイトに再び会う事ができるのです。

②「貴重な人間関係」

人は共感しあう事によって他人との距離をちぎめていくものです。もともと共通項のある人同士が仲良くなれるのは当たり前で、その共通項は「同じ学年だった」、「同じクラスだった」、「同じクラブ活動だった」という事と、「同じ年齢だった」と云うだけの、全くちがう個性の仲間に出会えるのは学校を卒業したあとは、ほぼ無いと云っていいでしょう。同じ青春を過ごした「同級生」「同期生」にもう一度会ってみてはいかががでしょう。

③「メリット」

同窓会のメリットといえば、貴重な人間関係を再び結びなおせることです。学生時代にパツとしなかつたとしても、今現在頑張つて輝いている姿で再会できれば、同級生のあなたへの印象は「頑張つていて素敵な人」と上書きされるでしょう。反対に落込んでいた時でしたら、「頑張つていて素敵な人」から勇気とやる気をたくさんもらう事でしょう。そのようにして同窓会を定期的に開催できれば、いつか自分自身にも目標が出来て、仕事も努力出来るかも知れません。教育者の言葉には「友情に勝る人生の宝はない。」とあります。

さあ、これからは、それぞれの卒業期で、クラス会や同期会の開催に大いにチャレンジして下さい。そしてわが母校の三商の良き想い出を語りあい、同窓会の活性化に大きくつなげてまいりましょう。

同期会やクラス会の開催に向けての質問や要望がありましたら、是非、同窓会事務局まで御連絡下さい。開催に向けてのアドバイスや応援をさせていただきますので、御気軽に相談下さい。さあ、次はあなたの手でクラス会、同期会を楽しく盛大に開催して下さい。



一枚の写真

十五期 塚越泰一



ここに一枚の写真があります。前列中央の人の顔を見て誰であるかお判りになりますか。

又前列両端の方々のお顔を見て誰方かお判りですか。難しいですね。それは、真中の人は元陸軍大臣、大将、男爵、文部大臣、A級戦争犯罪人、(故人)として赫赫たる経歴の持主 荒木貞夫という人です。

前列左端の方は三商二代目校長今村直人先生(故人)です。前列右端の方は三商五代目校長 清田栄一先生(故人)です。両先生の事は二十五期・二十六期生位迄の皆さんならきっとご存知でしょう。

ではA級戦犯の荒木貞夫氏と両先生の邂逅の理由は何であったのか。時は昭和二十七年(西暦千九百五十二年)暮場所は台東区浅草日本堤の料亭?ならぬ十一期卒業生吉田栄彌氏のご自宅です。写真では清田先生の後で立っている若い人です。この方の前、清田先生の前の方が御父君吉田昌太郎氏です。

苛酷な太平洋戦争の日本側指導者五十九人が巢鴨プリズンに収容されましたが、その中でも特に二十八人がA級戦犯として中には文官であり乍ら死刑になった人もありました。

荒木氏は罪一等を減せられ終身刑となりました。そして昭和三十年(西暦千九百五十五年)仮釈放になりました。ですからこの写真の時は未だ拘留中だったのですが、何故か密に一日市中に出られたとの事です。

この折に荒木氏が今村先生と旧知の間柄と伺い今村校長と教頭であられた清田先生を栄彌氏がお招きしたとの事でした。

此の時の御自宅は新築早々で木の香も芳しく豪華な宴を供されて感謝しますとの荒木氏からの礼状も拝見しました。扱これを契機として栄彌氏は時々巢鴨プリズンへ行き、収容の人々を慰問したり又「湯たんぽ」を贈ったりもしました。

戦前戦中は国の高位高官として世に時めいた錚々たる人々といってもやはり囚われ人です。暖をとる事も難しかったのでしよう。戦争後の物の不自由であった時期に湯たんぽを何とか手に入れて皆さんに贈った訳です。

この件についても沢山のの方々から手紙や封書がありましたが一つ一つ読むのも面倒なので全部は拝見していませんが、例えば、島田繁太郎(元海軍大臣、軍令部総長)・賀屋興宜(大蔵大臣)・佐藤賢了(陸軍参謀本部)・大島浩

郵便はがき



日本堤 浅草 一ノ二
吉田栄彌様

豊島区巢鴨拘留所
十月七、 嶋田繁太郎

お父さんへは夫人への深いお愛をこめて重宝な湯たんぽとお贈り頂き、お慰問の御手紙を拝見致し、誠にありがとうございます。お父さんへは早くも御手紙を拝見致し、誠にありがとうございます。お父さんへは早くも御手紙を拝見致し、誠にありがとうございます。

(ドイツ大使)・畑 俊六(陸軍大臣、陸軍参謀本部長)・木戸幸一(宮内大臣)氏等、他にも日本を戦争に導いた有名人が十指に余ります。

それにしても此のお礼状が封書で中は巻紙で墨痕も鮮やかに記されていたり、葉書迄も筆で書いてあったり、インキで書かれていても実に達筆なので、時代の移り替りを強く印象づけられました。

又更に面白い事には、スツカリと古びた葉書が五円、封書が十円中には二円と八円の切手が貼ってあったりして、今なら何と鑑定団に出品したら、キット大受けするのではな

いかとも思える様な歴史的な、或は人間意識が窺われる文書の数々でした。

最近の日本の指導者といえる人々の間に「日本の戦争は止むを得ず始めさせられた、今は中国やロシアが脅威である。

だから軍備の拡充、核武装せよ」との論議が大きくなっています。こんな時には過去の栄光と凋落を示している手紙のある事を後輩の皆さんへお知らせしたく思いました。

吉田 昭 彦 様
 栄 本 貞 夫

三商の懐かしい思い出

十九期 岡野 静夫

昭和二十年八月十五日、集団疎開先の川原で水遊びしていた時、日本が戦争で負けたと知らされ、そんなバカなと寮へ帰ったところ、お寺の本堂で皆が涙をながしながらラジオを聴いており、本当なんだと悲しくなった反面、これでやっと東京へ帰れるんだとホッとした気持ちだった。



その年の秋東京へ帰り、翌年二十一年四月都立三商へ入学した。北千住にいた自分がなんで越中島の三商だったのか判らなかつたが、父親が商人であったことから良い商業学校へと入学手続きしてくれたらしい。戦前の三商は商業の名門校で制服は慶応帽に紺の背広上下(下級生は半ズボン)修学旅行は中国へ行つたと聞かされていたが、我々が入学した時は戦時中の造船工業学校から復帰したばかりで、戦後のドサクサまぎれに実質無試験で入学させて貰った。

千住新橋の都電終点から茅場町経由、深川不動前まで約一時間半都電に乗り、そこから歩いて学校に通った。不動前から学校までは全くの焼け野原で、橋の袂には戦災で亡くなられた人々が埋められた土饅頭が残されていた。幸い三商は、鉄筋コンクリート造りで立派な時計台付きの三階建校舎が焼け残っていた。地下室は水浸しで池となり小魚が泳いでいたが、周辺の状況からすれば恵まれた学び舎であった。

入学した翌年、学校制度が六、三、三制に変わり我々も新制中学に移行し(旧制中学最後の入学生)二年目から新制都立第三商業高等学校の併設中学生となり、高校卒業まで延べ六年間お世話になる事になった。

入学当時は、戦後の混乱期の物資不足時代で洒落た制服などは夢の又夢、戦闘帽にカーキ色の布のカバンと色とりどりの服装で通ったものだ。先生方も同様戦時服の姿であった。満員電車の窓枠にぶる下がり、通学途中に米軍兵士

にチヨコレートを貰った事もある。学校の隣接地は、米軍第八騎兵師団の駐留地となり、その間に小さな都営住宅があり、数人の先生方が住まわれ我々の指導に当たって呉れていた。

校庭は、米軍の車両のキャタピラーで荒され、体育館も米軍兵士に優先使用され、その合間合間に生徒が使用させて貰っていた状態であった。体育実技の替りに江戸川の河川敷に農作業にいった事、遠足が多磨墓地で吉住先生のお世話で芋の買出しをして来た事。

教科書も満足な物もなく、今では想像もつかない様な厳しい環境状態のなかでの併設中学三年間であった。しかし今となっては厳しかった中にも楽しかった思い出も多く、貴重な体験となっている。勉強の方はさっぱりで、杉原先生の算盤塾へ通った程度で、出来の悪い生徒で何となく遊んで過ごしてしまい若干反省をしている。

高校一年移行(旧制四年)と同時に男女共学制が取り入れられ、我が校にも四人の女子生徒が入学してきて我々男子生徒は興味津々大騒ぎしたのを覚えている。二年、三年と女子生徒が増えて来たが、卒業当時は圧倒的な男子校であった。今から思えば何と変わった事か。

高校一年の時、栃木の佐野実業から新里正雄君が転校されて来て小生と同じ席になった、大変真面目な男で、彼の刺激で簿記会計に興味を持ち、これがきっかけで遅ればせながら勉強に励むようになり、お陰でそこそこの成績で卒業させて頂いた。

昭和二十七年就職戦線最中、三商の名と今村校長、清田先生他諸先生のご尽力で三菱銀行に就職させて頂き、無事定年を終え、今は恵まれた年金生活を送らせて頂いている。

人生七十七年喜寿を迎え、我々十九期生は、今も毎月十九日、大関君の御好意で蕎麦処大関庵でクラス会を開催、近況やら昔の思い出話を語りあい交遊を深めている。間もなく卒後六十周年、大関会十周年となるが、改めてお世話になった時計台のあった旧校舎を懐かしく思うと共に、三商と云う良き学校、良き先生、良き友人に恵まれた事を誇りに思い感謝している。

「財団法人、三商会」 存亡の危機

十二期 吉岡 鶴義

三商同窓生の皆さんが、財団三商会の存在は知っているが、今現在、存亡の危機的状況にある事を知らない人が多いのではなからうか。同窓生の中には財団三商会と同窓会とは全く無関係で、どこか遠くにある存在物と感じている方も特に若い世代の卒業生に多いと聞くに付き、この際同窓生にとっては如何に大切な存在であるかを少し述べてみたい。

この事は今現在「研究会」等開いて、一部同窓生が真剣に考えている事は同窓会報や卒業生の一部の人から聞き及ぶ所であるが、私は八十四歳になった今、私より先輩でご生存の方は非常に少なく、三商卒業生として又卒業後、三十五年間も母校で教師としてお世話になった人間として、そして財団三商会の歴史を少しは多く知る者として、黙って見過ごす事の出来ない状況になり、筆を取ることに致しました。

そもそも財団の資本金(約七億円)は何処から生み出された金額か、を知るべきであろう。三商初代校長吉澤徹先生は、昭和三年、東京府知事から校長を拜命するに当り、校地に隣接する埋立て地二千余坪を購入したのである。当時の学校長は今では考えられない程の権限があり、学校運営の総てを委されていたと云う。その資金はどうしたかは不明であるが、多分金融関係からと思われる。その返済を生徒の保護者に求め、保護者会費の中で特別会費として集金したのである。当時私達が生徒の時代(昭和十四〜十八)確か月額一円五十銭程であったと思うが、「かけそば」七銭の時代であるから今の価値は相当な金額である。

この土地は当初、霞(よし)一面の埋立て沼地であった。その後トラックで何台もの砂を投入、整地は生徒達の勤勞奉仕であった。第一期から第十三期頃までの生徒は、放課後、学校で用意された鶴ハシ、唐鍬、スコップ、モッコ等で汗を流して整地したものである。こうした先輩達の

汗の結晶によって、やつと昭和一五年頃、校地との境界線にあった塀も取除かれ、川岸運動場として体育・教練の授業、又は放課後の部活動に大いに貢献してきたのである。

保護者会(後のPTA)から納入された特別会費は、間もなく土地代は完済されたが、その後歴代校長に引継がれ、その資金で第三代伊沢校長の時はプール・図書館、第四代石田校長の時は新潟県六日町山寮の建設と事業を拡大、又、昭和三十九年、財団三商会の設立となったのである。然し、第六代清田校長の時から、この特別会費はストップの命令が東京都から出され、PTAからの集金は出来なくなったのである。然し世の中はバブル期、今迄、蓄財された資本金に金利も加わり漸くは不便を感じなかったのである。山寮事業、奨学金制、財団、雇用の人事も四名を有し、順調であった。

昭和五十四年第九代笠井校長の時、突然老化した校舍改築の話が持ち上がった。これは突然ではなく陰に三商OBの都会議員が四名もいて、その努力の賜と聞いた。大変ありがたい話と喜んだのであるが、問題は校舍を改築する場所である。

東京都は直ちに、川岸運動場へ白羽の矢をたてた。理由は校舍新築までの間、約三年間は通常授業を行う事が出来るようにと云う事であった。確かにその通りと大多数の教員も賛成したが、犠牲になったのは体育授業と運動部活の生徒達であった。当時の生徒達は丸々三年間、運動場の無い生活で、卒業して行ったのだ。体育教師としての私は、本当に申し訳ないと、その責任を感じたのであるが、どうする事も出来ず、その間、体育授業は決まって校舎の外のマラソン、越中島・商船大学から清澄通りを左へ曲がり、相生橋から佃島へ渡り、月島から左に折れて、晴海へ、そして本校へ戻るという約三〇分〜四五分のコースであった。

教師は毎時間、生徒と一緒に走る事は出来ない為、自転車に伴走誘導したが、生徒の中には、要領よく途中で隠れて走らず、帰校時にのみ現れて完走したように点呼を受けていた者もあったようである。

この様に長い歴史ある川岸運動場は、昭和三年から約五〇年の間、あくまで三商独自の私有地であるが故、この私有地に新校舍を建設する訳には行かず、これを東京都が買

上げることとなった。この時の時価は約十億円と評価されていたが、都はそれを半額以下の四億円で買上げる結果となった経由も、あまり一般には知らされていなかった。

当時、三商と同様な問題が都立日比谷高校にもあった事も、三商同窓会には知らなかった。

三商より二年前、やはり日比谷高校にも校舍改築の話が持ち上がり、日比谷は旧制府立一中、東京を代表する有名進学校であった事から、私立学校に追越され低迷を続ける都立校の復活をかける企図があったと聞かされた。

この日比谷高校にも私有地二千坪があった為、都は校舍改築の為此を買上げたのである。この金額は約七億円と聞く。三商と同じ二千坪であるが、赤坂の一等地にある地価の違いであった。然し三商との違いは、地価の違いだけではなかったのである。当時の日比谷高校同窓会や同校に関係深い教職員は敷地二千坪の一部、約二百坪を都に売却せず、同窓会館建設の為、残したのであった。理由は当時、日比谷高校は全国校体連(高等学校校体連)と東京都校体連の事務局を有し、それ迄は校舎の一部を借りて活動、非常に不便を感じていたもので、日比谷高校校長、同窓会OBの進言もあって、都を説得し同窓会所有の私有地が実現したのである。

私事で恐縮であるが、当時私、吉岡は東京都校体連バレーボールの代表委員をしていた為、よく会議の為、日比谷高校へ通い、この事実をよく知っていた。三商同窓会長、岡田一郎氏、学校長岩井氏にも、日比谷の前例から、敷地の一部を売却せず残す事を提言したのであるが、聞き入れてもらえなかった事は、口惜しい思い出として今でも何故もっと力説しなかったのか、後悔の念ばかりが自分を責める。

財団三商会その後の事は前述通りであるが、昭和四十八年、オイルショック発生、この頃よりバブル景気は次第に勢いを失って遂にバブル崩壊期を迎え、遂に金利ゼロ時代となり、財団三商会は一気に経営困難となり、遂に六日町山寮を手放さざるを得ない状況になった事は現在の同窓生も周知の事と思うし、残念でならないが、今危機的状況である事とは、一体何であろう? 大きな理由は二つある。

第一は、商業高校不要説である。かつては二十校程もあった商業高校も現在は九校に廃校又は合併されて、わが三

商も江東商業と合併されるであろうと云う話である。仮に明年度は、この合併問題は回避されたと、現天野校長より承ったが、将来の事は不明で、何れは合併の傾向にある事は否定出来ないと思われるのである。そして合併になった時を想定すると、財団三商会は三商独自の存在になる事は出来なくなるのである。その事実を、三商同窓会はしっかりと認識して貰いたいのである。

第二の理由は、現在の財団三商会の事業は何か？である。同窓会報四八号によれば、四項目があるが、実際に資金を使って活動しているのは、育英奨学金の交付のみである。この返済義務の無い奨学金制度も昭和五十年頃、当時の教職員、同窓生の発案で、この実現には当時の財団理事会全員の賛同で出来上がった物である。然し、この奨学金制度も今民主党政の政策の中に、高校授業料無償化と同時に返済義務の無い奨学金制度が唄われており、これが実施された場合、三商財団の奨学金制度は全く意味の無い存在となるであろう。つまり、財団三商会のものの存在する意味を失うものと考えられる。

「ここで今、二つの提言をさせて頂きたい。」私事で恐縮ですが、小生、財団三商會創設当初より、教職員代表として三商退職するまで十年間、理事を務めさせて頂いた者として、つまり財団OBの一人として提言させて頂きたい。

提言①

**財団法人三商會を都教育委員会の
監理下から脱却する事。**

財団の基金は全て、三商創立以来、生徒保護者会・PTAの積立金で、今、その保護者の大半は亡くなられている事から、当時の生徒つまり卒業生は、その意志を継ぐべき責任がある。財団法人会を都の監理から引離す事は大変な事と思われるが、小生は可能であると思う。又、又、私事で恐縮であるが、小生は三商在職三十五年間の間、財団法人東京都バレーボール協会の副理事長を兼務していた。長い間にはいろいろの事件があったが、一時、日本バレー協会との折合いが悪くなり十年間程、絶縁状態に陥り込んだ事があった。

その時の都バレーボール協会の監理者は都の教育委員会であった為、いろいろの助言はあったが、財団法人は元々独立採算制の団体である故、自分等の力で直立るしか方法

がなかったのである。然しその時の教訓としては、財団の理事役員は、財団の不祥事に関しては全員にその責任があると云う事である。つまり仮に財団破産の時は、理事全員がその負担を背負わなければならないのである。

今、奇しくも財団三商會も東京都教育委員会の監理下にあると云う共通点がある。財団法人は独立採算制をとる団体である事に変わりはない筈である。今こそ理事会は財団を解散して新しい組織を作り、再出発をするべきである。ここで問題点が一つある。

バレーボール協会と異なる点は、甚だ申し上げにくい事であるが、理事長が三商現役校長と云う事である。都立高校の校長さんは都教育委員会の傘下であり、会社で例えると社長の部下が上司に向かっては何も言えないのは当然の事である。小生、現職の時、昭和五十一年頃、第八代笠井校長時代に都の教育委員会から、川岸運動場を買上げた金は都の税金であるから、直ぐに返却して貰いたい、と云われた事があった。これに猛反発をしたのは、小生も加わる三商OB達であった。

結局、その話は立ち消えとなったが、そんな話を承つてくる校長はやはり立場の弱い人の表れではなからうか。幸いにも現在、財団三商會の理事十二名の中に、同窓会長始め七名の理事、過半数を占める存在価値は大きい。

中には法律に詳しい弁護士さんの名前もあり、是非OB一丸となって知恵を絞り、良い解決法を探して頂くよう頑張つて頂きたいものである。

提言②

株式会社「三商會」を設立する事。

三商を心から愛する卒業同窓生全員に呼びかけ、配当金等、期待しない、株券発行して(例えば一株一万円)、購入して頂き、従来の資本金と合わせて、土地、建物を取り、同窓会館として運営する。小生は会社経営の定款等には全くの無知であるが、同窓生の中には、多くの公認会計士もあり、人材には事欠かない筈である。これらの事が実現すれば、資金難に困っている同窓会の活動幅が広くなり、母校三商への援助等、一挙に解決出来るのではなからうか。本当に母校を愛する卒業生が多ければ、この会社は発展する事はあつても決して倒産する事はないであらう。

二十二期の皆様へ

二十二期 理事 篠崎 清

今回は計報です。永年同期会の評議員として活躍されておりました、才木健之君が二月に肺がんのため他界されました。彼は三十会や三十ゴルフ会でも元気で中心になって会のために頑張ってくれていた。彼を失ったことは返すがへすも残念でなりません。運悪く肺に転移してしまいました。それからは抗がん剤治療が始まり、大変苦しんでおりましたが、何が何でも生きるんだという気持ちで頑張ってきたのですが、とうとう帰らぬ人となってしまいました。仲間、我々も死という事を身近にしたとき平常心でいられない何かを感じる歳となりました。最後に才木君の奥様から皆さんへの気持ちを頂いておりますのでお知らせいたします。

皆様もどうかお体大切に、残りの人生を悔いなくお過ごし下さいますようお願いいたします。

悔いのない人生のためにも、来年には久しぶりに同期会を開催する予定です。

税のムダ遣いを

監視しよう そのII

二十二期 荻野弘康

はじめに

第二次事業仕分けとして、宝くじ管理協会や高速道路公団等の関連機構の数々の国民生活、感情等との矛盾点が連日報道され、税の使途に対する国民の関心は怒りを込めて高まりつつある。天下り機構は、省庁、独立事業法人、公益法人等合わせて四、五〇四もあるという。地方自治体の関連も数えたら二六、〇〇〇前後あるという。個々の事案についての無駄遣い(公金横領的な浪費や職権乱用を含む)を見るにつけ、聞くにつけ、個々の事案の改善、改革

等は当然であるが歳入と歳出に関する基本法を制定しなければ根本的な解決にはならないのではないだろうかと思ふ。

***一、公会計の会計監査の制度的な欠陥

わが国では、会計検査院という監査機関があるが、一九四六年六月から二〇一〇年五月まで（六四年余）二八人の会計検査院長がいるが、七年の任期を勤めたのは一人であり、ほとんど二年程度で交代している。

〔註〕二〇〇六年四月一日 定員一、二七八人／予算一七五億二二五万三〇〇〇円（平成二〇年度）

米国では、歳入庁と歳出庁があり、GAO（独立監査機構）による独立した監査を行っている。スタッフの任期は大統領より長く五年であり、かつ強制調査権も有している。

我が国の会計検査院法によれば、「会計検査院は、日本国憲法九〇条の規定により国の収入支出の決算の検査を行う外、法律に定める会計の検査を行う。」（同法二〇条）、「会計検査院は、常時会計検査を行い、会計経理を監督し、その適正を期し、是正を図る。」（同上②）、「会計検査院は、正確性、合規性、経済性、効率性、有効性の観点その他会計検査上必要な観点から検査を行うものとする。」（同上③）と規定され、検査報告事項として「検査の結果法律、政令若しくは予算に違反し又は不当と認められた事項」（同法二九条③）が規定されている。

さらに、「会計検査院は、検査の進行に伴い、会計経理に關し法令に違反し又は不当であると認める事項がある場合には、直ちに、本属長官又は関係者に対し当該会計経理について意見を表示し又は適宜の処置を要求し及びその後の経理については是正改善の処置をさせることができる。」（同法三四条）と規定し、改善要求（同三五、三六条）規定がある。

しかしながら、残念ながら本法の諸規定は、現行政権下で行われている事業仕分けとそれらに伴う具体的な事業の廃止や縮小の方向付けとは大きな制度的なギャップがあり、現行の会計検査院法で不十分であることは明白である。

***二、国税、公金等の歳入、歳出規制法を制定すべきである。

政治資金規制法の違反事件が頻発しているが、もともと政治家がなかなか本人の違反犯罪とならないように、緩やかに諸法規が規定されているのである。政治資金に関しては、毎年三二・五億円も政党助成金が議席数に応じて各党に交付されており（共産党は交付を拒否している）、企業、団体献金は廃止すべきであり、かつ、政治資金の管理者と政治家の連座制を強化しなければならぬと考えたいが、「自己証明は、証明に非ず」が監査の基本、鉄則であり、国民の税金の収支に携わる者は、納税者の理解、納得の得られる法理、法則、ルールによる厳正な監査、検査、審査等を受け、公務を執行しなければならないのは当然のことである。

前回の会報でも提言（エッセイ）しているが、「公会計にも複式簿記を義務づける」のは、会計業務の基本の基本である。収支報告だけで財産目録／貸借対照表がないのは制度的欠陥である。今次の事業仕分けにより、数々の無駄遣いが指摘されているが、指摘され、改善を求められる事項は、国民（納税者）の多くが賛同していることと思うが、現行の会計検査院法では全く対応が出来なかつたというところを理解し、気づいて公会計の収入と支出についての総合的、根本的な法整備を求めていかなければならないのである。

通常の公会計の監査、検査では、支出について、請求書、領収書があれば、予算との関連はあるが概ね「公正妥当」——「適正」ということで処理されている。事業の適性とか無駄遣いというのは、監査、検査の対象外なのである。高額な人件費についても、給与の受取人がいれば、粉飾ではなく、架空人件費でもないの、現行の監査、検査では（適正）ということでも処理されているのである。

庶民感覚でいえば、無駄遣いや高額な人件費は「公金横領」であり、「税金ドロボー」なのである。

〔註〕機構の理事長の給与が二五〇〇万円とか何もしない天下り理事が半数以上の協会とか個別事案の是正は

当然であるが、個別事案退治では、根本問題の解決にはならないのである。

派遣切れや期間切れで失業した者は、ハローワークに行列し、明日をも知れぬ不安な日々を過ごしている。三万人を超える自殺者が何年も続いているが、自殺者の多くは貧困が原因であるともいわれている。

公務員と民間サラリーマンとの定年や失職についての著しい差別や、給料、年金、退職金等についても、総合的な、基本的な法整備も欠かせないと考える。

むすび

近代国家の基本は、罪刑法定主義、租税法主義、代議制（政治家を選挙で選ぶ）に要約されるが、当然、主権在民であり、主権役人でも、主権財界でもないことを制度的に、恒常的に前進させていかなければならないのである。

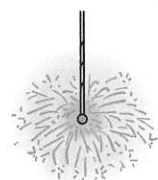
歳入に関しては、国税、地方税等の税法があり、「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負う。」（憲法三〇条）、「新たに租税を課し、又は現行の租税を変更するには、法律又は法律の定める条件によることを必要とする。」（同八四条）と規定されている。

歳出に関しては、「国費を支出し、又は国が債務を負担するには、国会の議決に基づくことを必要とする。」（同八五条）と規定され、会計検査院の検査を経た後に、決算委員会等で審議されてきたが、周知の如く極めて不十分である。

公会計の監査機構として、専門家（弁護士、会計士、税理士他）と有識者による監査機構を創り、強制捜査権（告訴権付与）、事業停止命令権、予算執行停止命令権等の強権を付与する。

本機構の人事については衆議院、参議院の承認事項とし、担当役員の任期は五年とする。会計検査院との統廃合も含めて、抜本的な改革に取り組まなければならないと思う。

天下り禁止等（優遇的な再就職だけでなく、各種の資格、土業取得の優遇措置もある）の公務員改革法等をはじめ、関連諸法規の制定、整備は当然のことである。



事 務 局

資料1-2

II. 特例民法法人移行認可申請条文

総 則

【整備法】

(通常の一般社団法人又は一般財団法人への移行)

第四十五条 移行期間内に、第五款の定めるところにより、行政庁の認可を受け、それぞれ通常の一般社団法人又は一般財団法人となることができる。

行 政 庁

【整備法】

(行政庁)

第四十七条この節における行政庁は、次の各号に掲げる特例民法法人の区分に応じ、当該各号に定める内閣総理大臣又は都道府県知事とする。

- 一 次に掲げる特例民法法人内閣総理大臣
イ～ホ略
- 二 前号に掲げる特例民法法人以外の特例民法法人その事務所が所在する都道府県の知事

諮 問

【整備法】

(委員会への諮問等)

第三百三十三条 略

2 略

3 内閣総理大臣は、次に掲げる場合には、委員会に諮問しなければならない。ただし、委員会が諮問を要しないものと認めたものについては、この限りでない。

- 一 第四十五条の認可の申請又は第二十五条第一項の変更の認可の申請に対する処分をしようとする場合（行政手続法第七条の規定に基づきこれらの認可を拒否する場合を除く。）

二・三略

4 略

(合議制の機関への諮問等)

第三百三十八条 公益法人認定法第五十条第一項に規定する合議制の機関（以下この款において単に「合議制の機関」という。）は、同項の規定によりその権限に属させられた事項を処理するほか、この款の規定によりその権限に属させられた事項を処理する。

- 2 第三百三十三条第二項、第三項（第三号を除く。）及び第四項の規定は、都道府県知事について準用する。この場合において、同条第二項中「委員会に」とあるのは「第三百三十八条第一項に規定する合議制の機関（以下この条において単に「合議制の機関」という。）に」と、同項ただし書中「委員会が」とあるのは「合議制の機関が政令で定める基準に従い」と、同条第三項中「委員会に」とあるのは「合議制の機関に」と、同項ただし書中「委員会が」とあるのは「合議制の機関が政令で定める基準に従い」と、同項第二号ロ中「第三百三十六条第一項」とあるのは「第三百四十一条において読み替えて準用する第三百三十六条第一項」と、同条第四項中「委員会に」とあるのは「合議制の機関に」と、同項ただし書中「委員会が」とあるのは「合議制の機関が政令で定める基準に従い」と読み替えるものとする。

【整備法】

(認可の基準)

第一百七十七条 行政庁は、第四十五条の認可の申請をした特例民法法人（以下この款において「認可申請法人」という。）が次に掲げる基準に適合すると認めるときは、当該認可申請法人について同条の認可をするものとする。

- 一 第二十号第二項第二号の定款の変更の案の内容が一般社団・財団法人法及びこれに基づく命令の規定に適合するものであること。
- 二 第十九条第一項に規定する公益目的財産額が内閣府令で定める額を超える認可申請法人にあつては、同項に規定する公益目的支出計画が適正であり、かつ、当該認可申請法人が当該公益目的支出計画を確実に実施すると見込まれるものであること。

(公益目的支出計画の作成)

第一百九条 第四十五条の認可を受けようとする特例民法法人は、当該認可を受けたときに解散するものとした場合において旧民法第七十二条の規定によれば当該特例民法法人の目的に類似する目的のために処分し、又は国庫に帰属すべきものとされる残余財産の額に相当するものとして当該特例民法法人の貸借対照表上の純資産額を基礎として内閣府令で定めるところにより算定した額が内閣府令で定める額を超える場合には、内閣府令で定めるところにより、当該算定した額（以下この款において「公益目的財産額」という。）に相当する金額を公益の目的のために支出することにより零とするための計画（以下この款において「公益目的支出計画」という。）を作成しなければならない。

2 公益目的支出計画においては、次に掲げる事項を定めなければならない。

- 一 公益の目的のための次に掲げる支出
 - イ 公益目的事業のための支出
 - ロ 公益法人認定法第五条第十七号に規定する者に対する寄附
 - ハ 第四十五条の認可を受けた後も継続して行う不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する目的に関する事業のための支出（イに掲げるものを除く。）その他の内閣府令で定める支出
- 二 公益目的財産額に相当する金額から前号の支出の額（当該支出をした事業に係る収入があるときは、内閣府令で定めるところにより、これを控除した額に限る。）を控除して得た額（以下この款において「公益目的財産残額」という。）が零となるまでの各事業年度ごとの同号の支出に関する計画
- 三 前号に掲げるもののほか、第一号の支出を確保するために必要な事項として内閣府令で定める事項

答 申

【整備法】

(答申の公表等)

第四十四条 委員会は、諮問に対する答申をしたときは、内閣府令で定めるところにより、その内容を公表しなければならない。

2 委員会は、前項の答申をしたときは、内閣総理大臣に対し、当該答申に基づいてとった措置について報告を求めることができる。

【整備法】

(答申の公表等)

第三百三十四条 公益法人認定法第四十四条の規定は、前条第二項から第四項までの規定による諮問に対する答申について準用する。

(答申の公表等)

第三百三十九条 公益法人認定法第四十四条の規定は、合議制の機関について準用する。この場合において、同条第二項中「内閣総理大臣」とあるのは、「都道府県知事」と読み替えるものとする。

【認定法施行規則】

(公表の方法)

第五十三条 法第二十八条第二項、第四十四条第一項（法第五十二条並びに整備法第三百三十四条及び第三百三十九条において準用する場合を含む。）及び第四十六条第二項（法第五十四条において準用する場合を含む。）の公表は、インターネットの利用その他の適切な方法により行うものとする。

食は命なり

十期 萩野 文雄

戦前、吉澤教育の一環として昼食時に、クラス全員が姿勢を正し、「食前感謝詞」を奉唱した。

食前感謝詞

夫レ五穀ハ天地ノ神之ヲ造リ国土之ヲ衆生之ヲ耕シ父母之ヲ得テ吾ニ食セシム今食前ニ対フニ当リ瞑想黙座深ク四恩ノ辱キヲ謝シ謹ンテ報本反始ノ実ヲ挙ケ以テ人タルノ道ヲ竭サンコトヲ期ス

食前に面したとき、五穀（米、麦、粟、ひえ、豆）の恵みは大自然と日本の国土と勤勉な農民によって作られ、それを親が購って与えくださった。この四恩に感謝すると共に、恩に報いることを実行し、人間として正しく生きることを誓う。

現在、日本は世界一の長寿国として注目を集めている。しかし食習慣の欧米化に伴い脳梗塞、心筋梗塞などで命を落とす人も多い。医療の進歩で一命を取り留めても、寝たきりになるなど日常生活に支障をきたす人も増えており、これに伴う医療費、介護費の増加、家族への負担が大きな社会問題になっている。

戦中戦後は、現在のような飽食時代と違い、食べる物が乏しかったから、糖尿病も心筋梗塞も肥満症もなかった。また元来、日本人は脂っこい動物性のものを食べなかつたから心臓病が少なかった。その分、塩分が多かつたが、その摂取を控えるようになってからは脳卒中も胃癌も減つたという。

米国では動物性脂肪を取り過ぎないように例えばバターをマーガリンにするなどの運動を進めてきた結果、心臓病が減ってきており、またバランスのよい栄養食として大豆、大豆製品に人気が高い。



昔から「少食に病なし」「腹八分に医者いらす」と言い伝えられている。

「食は命なり」との名言を残した江戸時代の観相家、水野南北は、少食粗食を守る者は、健康を与えられるだけでなく、難病克服の鍵であり、運命もよくなってくる。多くの事例を挙げて証明している。

昭和中期頃までの日本の普通の家庭の朝餉は、炊きたての御飯、葱かワカメの味噌汁、納豆、漬物が定番で、家族が食卓を囲んで正座し、「頂きます」「御馳走でした」と挨拶を交した。それは「食」を畏れ慎しむ、という伝統の作法であった。

食生態研究家の西村震哉氏は、著書の中で、国産大豆を原料とする食品は、身体に最も良いが、中でも納豆は最高傑作だ。大豆の持っている良い面が全て生かされ、加えて醗酵してできる良いオマケまでついている。しかも安価で、健康維持に最適な食品が、あまり食べられていない。第一の原因は朝食が洋風化し、米を食べなくなり、納豆も食卓から消えた、と憂いている。

日本の穀物自給率は三〇%を割っている。各国がそれぞれの自然的社会的条件に即して自国の農業を持続、発展させ、食糧の自給度を高める方向を目指している。ところが日本は減反政策を止めようとしない。農業と工業を同一視し、農産物を市場原理に曝し農業を国際分業論の餌食にしている。減反政策は農業技術の継承を失わせ、農家の活力を弱めるだけでなく、瑞穂国日本の景観も、農村共同社会の美風も切り捨てている。

世界的な食糧・環境問題の権威、米国のレスタター・ブラウンは『飢餓の世紀』の中で、「われわれは高度に都市化された環境にあり、また高度に商業化された農業を営んでいるために、人間は基本的に土に依存している、ということを忘れて」と警告している。

三期の故歌川平次郎氏は、戦後、石原莞爾が新日本の進路として提唱した都市解体、農工一体、簡素生活に共鳴し山形県遊佐町の西山農場に移住し、農民に転身された。

(平成二十一年十月十八日記)

二度と参加したくない同窓会とは

十九期 木戸 隆吉

- 一、二次会でおごつてくれそうな奴が一人もいない同窓会
- 二、先生が商品券で会費を払っていた大分の同窓会
- 三、会費が年金から天引きされている同窓会
- 四、話している時に先生が静かにしなさいという同窓会
- 五、成績順で並べさせられる同窓会
- 六、女が俺を取り囲んでうざくされた同窓会
- 七、出席者より遺影が多い同窓会
- 八、ただで落語をやらされ皆に下手だねといわれた同窓会
- 九、唯一人私を覚えていなかった同窓会
- 十、みんなぼけちゃって何の為に来たのか解らない同窓会

(第四チャンネル「笑点」より)

二十一世紀漫才師による笑う諺

火事と喧嘩は江戸の華→火事と喧嘩と和田あき子
 鱈ちり、ぶぐちり、玉子酒→愛情、友情、年賀状
 努力、忍耐、勤勉→義理と人情とお歳暮
 作詞、作曲、歌唱力→声と顔と事務所之力
 遠い親戚より近くの他人→遠い親戚より近くのサラ金
 親孝行したい時には親はなし→

親孝行したくないのに親がいる
 可愛い子には旅をさせろ→可愛い子は我が子だけ
 犬も歩けば棒にあたる→犬も歩けば飼主も歩く
 牛にひかれて善光寺参り→車にひかれて善光寺に眠る
 えびで鯛を釣る→エビはタイから輸入している

出雲正明先生を偲んで

二十三期 柴崎 晴雄

一、出雲正明先生の召天式に臨んで

本年二月十六日。本郷台のダイヤモンド・チャペル（横



浜市栄区飯島町）に於

いて、わが恩師である出雲正明先生の召天式が荘厳に執り行われた。享年八十七歳。二度ほど級友とご自宅へお見舞いに伺ったことがある。表敬的なお見舞いであったにせよ、ご家族に歓迎され長

居したことを想起する。その後、ご訪問のご迷惑を考慮、一昨年暮れにお見舞いとして果物をお贈りしたところ、文学にご造詣深い師のこと。お礼状には次のように書かれていた。

高村光太郎の「詩集：智恵子抄」の一節から引かれ、『心病める妻の為に、この店の果実を買って来るくだりがあるのです。私はこの詩集が好きで、この先生に手紙を出したこともありました。女子校の青年教師だった頃、「智恵子抄」を短い劇に仕立てて文化祭で女生徒達に上演させたこともありました。そんな次第で、私に若き日の夢を甦らせてくれたお見舞いの品を有難く頂戴させて頂きます。故障だらけの体ですが、何かと凌いで行くつもりです。』

と書かれてあった。お贈りしたものは「千疋屋」の品であった。このことから、老舗の果実店が著名な文学作品にも登場していたことをあらためて教えられた。

師は、数々の詩集を出版のたびに、クラス会を開かせて頂いた。短歌の作品ご専門と思いきや、劇作家でもあったこともサブライズであるが、加え、実は全く意外な側面をも持ち備えておられたことをこの紙面を借り、ご紹介することを許されたい。一九七八（昭和五十三）年一月十八日刊行の『都立三商五十年の歩み』は、三商史に遺る画期的

な「年史」であり、殊に草創期の史料を掘起こし、収集し、検証し、整理し完成へ漕ぎつけた貴重な記念誌であった。出雲先生が編集責任者として中心となり、努力の結果、発刊に至った大作である。自らこの年史に「難航二五〇日」と題され、巻末に一編集子の言葉として意外な記述が記されていた。その編集作業が規定の期限に近づくにつれ、レイアウト修正などに手数がかり、ある夜、身動きとれずに立ち往生して遅々として進まず、底知れぬ孤独感に襲われた時の心境を、『あたかも西部劇の名画「真昼の決闘」のゲリー・クーパー演ずる保安官が、お礼参りに戻って来たならず者四人を相手に、誰の協力もなく単身死を賭して戦う保安官の姿を想起した」との記述がある。

さらに、詩歌集「歳月のかたみ」、愛娘の遺稿集を解説編集した「青春の自画像」等を上梓、遺作となった歌集「黄落無限」では欧米旅行で見聞したままの地名、人名をカタカナ混じりにグローバルな題材を織り込んだ作風はユニークなばかりか、サブライズである。師の予期せぬプロフィールを発見したのは私だけであるまい。作品の一部を左にサンプリングする。

♪在りし日の君が笑まひに

心躍る幾度や見しローマの休日

♪オードリー君が眠れる美しくに

スイスの村を訪ぬる日あれ

♪ソマリヤの子箒へ愛の手さし伸べし

大き腫はもはや聞かず

♪ブルージュの修道院の面影に

なき子重ねて懐れ行きし

♪心寂しき酔いどれ画家の筆になる

モンマルトルの白き道すち

あの当時、私どもと共通の銀幕のスターへの憧憬をお持ちであられたとは！



当時、三商の学舎では私どもは師がクラス担任であられ、ご担当教科目は国語（古文）をお教え戴いた。師は二十六年七ヵ月ご勤続

の後、三商を退職されたが、同窓会報第一九号に「退職のあとさき」と題し、クラブ活動の文学部（顧問）に入部者が無くなったことから、文学活動へ転身の志望もあって退職の決意をされた、と書かれているほどである。題材とされた作品の数々を国内、国外に章分けした、グローバルな作品にはあらためて敬意を表したい。合掌！

二、出雲先生を偲んで

三十一年 山下 勝利（三年二組）

平成十三年にクラス会を企画した折に、担任であられた出雲先生に幹事会の席で連絡をした時に、東京に行くのは無理とお話したので、先生のお住まいの鎌倉で、料理店「鉢の木」にて二十三名の参加で、平成十三年十一月十一日にクラス会を開会いたしました。先生の近況や思い出話の後、花、記念品をお贈りして大変によるこんでいただきました。

当日は腰痛で動けない状態にもかかわらず奥様の車で出席していただきました。その時にお会いしたのが最後となっていました。

その後、先生の書かれた詩集と俳句の本を送っていただきました。その後アルツハイマー病を患って、ペンを握ることが出来なくなると聞き、非常に残念に思っています。

顧みますと昭和三十五年の三商入学後に一年生と三年生の二年間担任として大変にお世話になりました。出雲先生は真面目一筋の先生でした。心より御冥福をお祈り申し上げます。

訃報

ご冥福をお祈り申し上げます。

出雲正明先生（元・都立三商国語課教諭）

平成二十二年二月十二日逝去されました。享年八十七歳

三商在任昭和二十九年九月〜同五十五年（一九八〇）三月



当時 三商4年生(17才)と
70年後の筆者

【第一話】

華の十二期 回想記

むかしばなし

十二期
内藤 登

むかしむかしあったとさ？

昭和十四年（一九三九年）二月といえ、今からはほぼ七十年前、古い古い話になる。故司馬遼太郎氏が「別国の観」と断定した『軍統帥権』に支配された日本の真つ只中の時代だった。

私（ワシ）ら五名は神田の小学校から越中島の府立第三商業学校を受験すべく永代橋を渡った。「お前には一商は無理だ、三商なら或はひよっとするとひよっとするだろう」担任の教師は謎のような事を咳（つぶや）いて私を送り出した。

三商には算数、国語、理科の学科試験はない作文だけだという、可能性に頼るしかない。

小学校の十倍はありそうな校庭を見た時にぶったまげた。講堂？に入ると黒い坊主頭が累々（るるい）と蠢（うごめ）いている、二千人は超えるだろう。

この学校は吉澤徹先生という方が、ヤングジェントルマンを養成しようという理想のもとに昭和二年創立された東京府下屈指の商業学校だという。

だが、ヒゲの吉澤校長は入試の直前逝去されてしまわれた。これまでは、校長先生が講堂の壇上で「作文」を読み上げ、受験生はそれを拝聴してそれぞれ決められた教室に散って、聞いた作文を原稿用紙に記し感想文を添えることになる。

たかだか二時間足らずで受験は終わる。

受験生の成績はそれぞれの小学校から（内申書）で申告されているというが、作文一本で二千数百名から三百五十名の合格生を選ぶ大変な作業だ。

七人に一人の合格となる。私の合格は小学校で一人きりとなった。ひよっとしたのだ。

「作文」の題名は『富士山』だった。

「およそ山というものは、前からこれを見、後ろからこれを眺めるに、姿形が異なるものである。」

然るに△富士山▽は東西南北から眺めて見るに殆ど形が同じである。……に始まって……我らも△富士山▽の如くありたいものである」といった文章だ。

ともあれ三百五十名は選ばれた訳である。教室数が限られているので、ひとクラス五十名づつとしてABCDEの五クラスが午前の部、残りの百名はFGと二クラスに分かれて午後の部に分けられた。後年ABCは二年時から一二三と和教組に替えられ、五年生時には一、二組は就職組、三組以下は受験組に分けられ混在する。

時代の流れである。時代の流れといえ、入学して驚いた。一年生の制服がなんと七分のズボンなのである。冬は黒、夏は霜降り、上は背広、帽子は蛇腹を巻いた慶應帽、白いYシャツ黒ネクタイ、実にカッコいい。だが下がいけません。ズボンは膝下切りの長靴下短靴履いて、表に出れば、幼稚園児か小一かヤングジェントルマンが泣き出しそうな出立（いでた）ちとなる。『ミッターねエ』当時浅草六区の喜劇俳優「シミキン」の台詞を叫ぶ少年もいた。

入学した少年は大部分が下町育ちである。

一年はC組、担任は千葉先生。三ツ揃えをキチツと着、謹厳実直を絵に描いたような姿博しむらくは頭部の額が広く後退して地が見える。早速「逆ホタル」略して「ギャボ」とニックネームが進呈される。七人に一人と厳選された少年達だが、皆が優良児とは限らない、真面目一徹もいれば、オッチョコチョイもいる。これが人の世だ。

早速だが、入学早々こんな事件があった。実は「ギャボ」さんが烈火のように怒った。先生が黒板に向かったまま何やら説明をしていた最中、「ギャボ」という囁きが耳に入ったのであろう、「キツ」と振り向いた先生は「誰だ！今何か言っていたものは？立って前に出て来なさい」日頃の温厚ぶりをかなぐり捨てて本当に怒った顔つきで叫ぶ。「シュン…」と一斉に静まった生徒達は頭を伏せて立つ者はいない。

「先生は誰だか分かっている。出なさい」再度「ギャボ」さんは叫ぶ。顔色がさっと白くなり、本当に怒っているのだ。この儘では収拾がつかない……その時、教室の右隅からツツと立ち上がったひよる高い少年が、これも青白い顔で教壇に向かって歩き始めた。「よろしいわかった。君では無いことは分かっている。君の犠牲心に免じて皆立って、その儘時間が来るまで立っていなさい」

言い捨て先生は出ていってしまった。オッチョコチョイと真面目一徹の対の姿を絵に描いたような情景である。

私は今もその少年、近藤章一氏を尊敬している。その一年次、吉澤教育の片鱗を印象づけられた事象があった。生徒達が講堂に集められた、講堂が一杯になったから多分全校だったのであろう。

『謡曲』の稽古なのだそう。何やら先生の偉い先生が講壇に上がる。習う曲は（『東北（どうぼく）』）というのだそう。ヤングジェントルマンになるには謡いまで習わなくてはならないのか？

正直なところそう思った：

どころは ここのえの

どうぼくの れいらにて

△所は九重の東北の霊地にて▽ 先生がこう唸る 生徒たちが

続けて腹からの声を出して唸る。
みなかみは やまかげの

かもがわや

▲水上は山陰の賀茂川や、続いて生徒が唸る。

初日はここ迄の繰り返しの稽古となる。

実はこの後、末白河の波風もいさぎよき響きは
常葉の緑をなすとかや……と続くのだが

この『東北』何百とある謡曲の演目の中で「軒端梅」
(のきばのむめ) という演題のほんの一部から選り出され
たもので初心者向きとして選ばれたものか、或は主題が
「梅を愛でる」物語であるから、

春の入学期に相応(すさわ)しいとして選ばれたのか？
まさか「東北」が「辰巳」(丑寅⇨東南)に擬(なぞら)
えたものではあるまい。想像するだに不謹慎のお叱りを受
けよう。謡いの稽古はこの一回のみで消えていった。

さて、それからが大変！

さて、吉澤イズムの三商も、今村校長になられてから、
次第に風向きが変わってきた。世は軍国主義へ舵が曲がっ
てきたのである。

ヤングジェントルマン育成から、ヤングソールジャー育
成へと学校教育方針も変わらざるを得なかったのである
う。

今で言うチェンジである。チェンジが始まれば意見の相
違が芽生える。遂には主張の相克が表に現れて優れた教師
が去っていった。

*謡曲百選より

(軒端梅) 一京の春、東国の僧が

京の東北(鬼門)に建つ悪魔払いの東北門の軒先
に、昔和泉式部が植えたという「梅」を訪ね、和泉
式部を慰める説経をあげたところ、僧の夢枕に式部
が現れ楽しい昔語りを交わすという物語。

といっても、生徒たちには何の動揺も与えていなかった、中でもこれは創立以来の行事だったと思うが、朝の
「冷水摩擦」がある。全校生徒、教師も含めて、校庭で全
員パンツ一丁、裸になって色とりどりの洗い桶の中の汲み
置きの水を手拭いで絞って、全身を摩擦するのである。

洗い桶は、内径三十糎、深さ十五糎程の丸桶で鮮やかな
赤、黄、青、緑、白の五色に染め分けたセルロイド製のク
ラス毎に配分され、各教室隅に積み上げておく。始業時間
の四、五十分前二名の当番は教室からその洗い桶を運びだ
して、校庭の所定の位置に学年毎、クラス毎に直線に並べ
て行く、朝礼台に向かって右から一年一組、左に二、三組
と五年五組まで、赤、黄、青、緑、白の縦の列が約五十個
づつ、二十五列の鮮やかな色彩を描いて校庭一杯に拡が
る。カラー桶のお花畑、壮観である。

次に当番は校舎の前に造り付けられている中一米、深さ
五十糎程の細長い貯水槽から洗い桶で水を汲み出して、そ
れぞれの桶の半分くらいに注いで行く。それぞれの桶が満
たされて行く頃、校庭口に開いたドアから、パンツ一枚の
少年達が手拭い片手にワラワラと湧いて飛び出してくる。

ワイワイ、ガヤガヤいつときの騒ぎが所定の位置に収ま
るとピタッと止み、朝礼台上の五年生代表の号令のもと、
決められた順序で体の上から足さきまで絞った手拭い(ま
たはタワシを持ち込む者もいた)で擦(こす)り上げる。
春夏秋冬晴れてる限り月々土続けられた。雨天の日は教
室内で、銘々の机の上に色桶を置いて自主的に行うことにな
る。大騒ぎだ。

床に水をこぼしたりして見回りに来る先生高橋(日僂
(にっちゅう))教師に見つかろうものなら、怒鳴られ、
四つん這いになって隅々まで拭き上げさせられる。……が見
回りが来そうもないと見定めたら、生徒達の天下、剽軽
者(ひょうきんもの)が教壇に駆け上がって黒板袖の鞭を
片手に色桶の縁を叩いて唄い出す。

♪僕は三高の四年生 ッンッ

白いYシャツ黒ネクタイ ッンッ

巻いた蛇腹は伊達じゃない ッンッ

魔よけ 鬼避け 女寄せ ッンッ

♪私(わたし) 山脇三年生 ッンッ
萌(も) える想いのワンピース ッンッ
白いマフラー伊達じゃない ッンッ
魔よけ 鬼避け 男寄せ ッンッ

当時の少年(中学生)にとって、女子高生は憧れの的であ
った。まして山脇の女学生は裾長の濃紺のワンピースを
胸の下で絞り、白いマフラーを翻えして颯爽と歩く姿のな
んと清楚で、魅力的なことか！

歌はまだまだ続く、彼と彼女は想い想われ結ばれて、楽
しい家庭を築いていくという十番くらいまで続くロマンチ
ックな歌なのだが、ここまで来ると皆、ワツとくる。隣の
教室から覗きにくる。

教師の影が差すこともある。…そうなると彼はサッと教
壇から自分の席に戻る。その素早いこと忍者顔負けであっ
た。

彼はクラス一番の剽軽者であり、人気者だった。
後に三菱系大企業の総務部長にまで至る平山真二郎氏で
ある。その才は三菱系総務部長会でも珍重されたに違
ない。

剽軽者といえば当時の映画の珍優人高瀬実乗の「あの
ネ、おっさんワシヤかなわんヨ」と見栄を切る珍芸があっ
たが、何かという鼻の下に泥鰌ヒゲに見立てた指二本を
立て「ワシヤかなわんヨ」とおどける、『少年倶楽部』連
載「まぼろし城」の主人公木暮月之介の大ファンだった少
年もいた。

後に、小野派一刀流七段練士にまで至る故古暮正雄先生
その人である。

三商の教師としても、「史学クラブ」の指導者としても
生徒に慕われ、忌日には数十人の教え子が集って慕参に訪
れている。

三百五十名の少年たちである、硬派もいれば軟派もい
る。真面目一徹な者もいれば悪戯(いたずら)大好き人間
もいる。

文学好きは蝌蚪(こどう)へおたまじゃくしと名付けた原稿用紙
に手書きの文集を作って、時間中に教室で回覧している者

たちもいる。
砂だから、教師の渾名を符丁にして話題にする奴等も出てくる。

まことにケシカラン話である。ケシカラン話だから生徒達は面白がってヒソヒソと囁き合う。

囁き合いが目に留まると教師は怒る。

高橋(日僞)先生の竹刀(いない)、江藤先生の本銃、北古賀先生の鞭と爪。(片手に教壇の鞭と一方の手の親指と人差し指の爪で生徒の額の毛を三本引き抜く罰)お前は猿にも劣るという意味)が襲ってくる。

今も昔も変わりのない、教師と生徒達の追っかけごっこである。

こういう事があった。小曾根という先生は珠算の教師である。珠算といえば商業学校の表芸である。その割り算の教え方が「式壺天作(いちてんさく)ノ五(ご)」から始まった。珍聞漢聞(ちんぶんかんぶん)である。

そこで「割り算」の試験の時間、私は筆算で計算していた、と、斜前に坐っていた生徒が「先生、内藤は筆算でやっています」と言いつけた。

私は時間中立たされっぱなしだった。期末の「通信簿」には赤字の「丙」が押印されていた。

落第当然の烙印である。なのに無事進学させて頂いていた。学校の校風だという有難い校風だった。

このおらかな校風が、昭和十四年→十五年と次第に変貌していった。

『国民精神総動員』が国の方針になった。

三年次から黒の長ズボンになる筈が、カーキの長ズボンにゲートル履きにしるという。また通学二キロ以内のものは、徒歩通学だと命じられた。

我が家は学校にコンパスの針を置いて半径二キロの円を描くと丁度その線になる。一計を案じ自転車通学にすることにした。我が家は蒲団屋であった。当然配達用に自転車は必需品だ。学校から帰ったら、配達は私の役目ということで妥結した。徒歩通学は免れたが配達仕事が課せられる、毎日という訳ではないのでそれで妥協した。

戦争だ！戦争が始まった！

遂にその日が来た。早朝六時半、店先で登校のためのゲートルを巻いているとラジオが、がなり始める。軍艦マーチだ。続いて

『大本営発表、帝国陸海軍部隊は本八日未明、西太平洋において米英両軍と戦闘状態に入れり。』

くりかえします……

△大東亜戦争△の勃発だ！大人達は囁き合っていたが、遂に始まったのだ。

総身が鳥肌たつて来る。自転車のペダルが踏めない。おたおたと学校に向かう。戦果は、こ存じの通り。『勝った、勝った』の大騒ぎ。…

学校ではこの日を『大詔奉戴日』とした。毎月八日を銘記するため弁当を「梅干し弁当」(日の丸弁当)だけにしろと命じられる。生憎(あいにく)ながら私は「梅干し」が大嫌いだ。また一計を案じた。

波の華(塩)である。まだ暖かい飯だけを弁当に詰め、上からパラパラと塩を振りかける。蓋をして学校まで持っていて蓋を開ける。結構いい味に仕上がっている。これを△日の丸弁当△と見立て食う。見るものが見れば、これは△白旗△である。

見つかればそれこそ大目玉を食う。蓋をズラしながら、こそこそと食う。年末から年始にかけて海軍の「ハワイ、マレー沖海戦」陸軍の「マレー半島コタバル上陸」そして目指すは『シンガポール島』。勝った、勝ったで、皆上機嫌。

△白旗△なんて問題にもならない。

ところで学科はガゼン軍事教練が増えた。一週に四〜五時間、殆ど毎日ゲートルを外す暇はない。

が、ゲートルの方が化繊(ステールファイバー)という代物なものですぐヨレヨレ、ずるずると下がってくる。

しょっちゅう巻き直さなければならぬ。銃を片手にした時には始末に困る。

学校は商業校なのに講堂の隣に立派な銃器庫があつて一クラス分の三八式歩兵銃(五十挺位)が整然と銃架に収まっている。

勿論、銃剣、剣帯、弾薬盒、飯盒一式も、指揮刀、防毒面まで揃っている。教練となると、銘々で銃器一式を持ち出して身につける。

教練は背広姿では様にならないので、上はレインコート様のカーキ色のコート、下はカーキの長ズボンと黒乃至濃紺のゲートル巻き、靴は黒革乃至ズックの編み上げ短靴となる。頭は通常の制帽、黒の蛇腹付きの慶應帽、ズン胴のコートではシマらないので、これに剣帯で胴を締め、牛蒡剣(銃の先端に装着する短い剣)を左腰に吊す。更に射撃訓練が加われば、腹の左右に弾薬盒を身につけることになる。まことに珍な姿である。

「整列」「右へならエ」「キオツケ」

配属将校は生徒は皆大真面目である。基本は直立不動、右手首を右前に折り、銃身の上部三分の一辺を握り銃底を右踵辺につけ銃を握った右手首は腰骨のあたり、胸を張り、左手は掌を伸ばして、自然に左腿に着ける。頭は上げて前方を直視する。次は銃身を引きあげ、右手を右肩のあたりに上げ、左手で銃握(じゅうは)を握り、右肩に置き、右手を滑らして銃底に握り直し右肩に担い上げ、左手を左側に降ろす。これが「担い筒」である。

「前へエ・進め」の号令で左足から踏み出す。

これを隊列一斉に行わなくてはならない。この姿で新宿伊勢丹前に午前六時集合、四列隊列で甲州街道を一直線、日野浅川橋まで往復延べ約四十km行進をやらされた。

往路は小林実氏が自家用のラッパを吹きな鳴らし意気揚々行進したが、復路は、銃を天秤に担ぎフラフラで帰ったこともあった。

これは五年時のことだったかな？

戦争には空襲もあったのだ！

さかのぼって昭和十七年四月十七日(土)。

これはこの戦争の勝敗を分ける重大な事件に遭遇することになる。四年時(ゴッさんの級(クラス))午前の三時限目か?相変わらず「教練」の時間だった。

突然サイレンが鳴り響いた。……「空襲！」

「空襲！」「これは訓練ではない 本物だ！」と誰かは

知れない声が叫ぶ！教練を指導していた、ガチャマン少尉が慌てて「回避！」「回避！」と指揮刀をもつれさせて校庭の左隅にある△登校口▽を指さす。生徒は銃を抱えたまま、その口に殺到する。気が付くと銃を抱きかかえ、皆固まって下駄箱に添ってしゃがんでいる。

やがて「ポコン」「ポコン」と高射砲の発射音が聞こえてくる。物見高い、威勢のいい連中が外へ飛び出す「おい見ろよ、変な物が上がっているぞ！」しきりに講堂の方向の空を指差している。

教官が制止しているのに、気の早い連中が後に続く。怖いもの見たさ、私も尻馬に乗る。

「ギョッ」とする。何と茶褐色の出目金の化け者みたいな物体が一つ二つ……七、八つ川崎方面の曇り空に浮んでいる。その周りに破裂する白黒煙がパッパッとはじける。

妖しの物体は△阻塞（そさい）気球▽というもの、これで空飛ぶ飛行機を防ごうという代物だ。第一次大戦（大正時代）の複葉機を防ごうとした兵器らしく、この低空気球でアメリカの大型爆撃機に対抗しようとは、まるで漫画である。

後で分かったが、襲来したのは△ノースアメリカンB25▽という大型機、これを空母に載せて日本の空を侵そうという計画。これは余談であるが、とうてい不可能と思われる「東京空襲計画」を実行したドーリットル中佐という米軍将校のヤンキー魂も感心するが、この大型機を運んできた△サラトガ▽△ホーネット▽という二隻の空母は、開戦の日、真珠湾奇襲で取り逃がした空母であったという。この二隻は、後のかのミッドウエー敗戦の折りの米海軍の主力空母になった。

ハワイで取り逃がしてしまった空母に再三再四痛い目にあわされている。ハワイの機動部隊司令長官も、ミッドウエー海戦の機動部隊司令長官も航空畑ではない砲術系の將軍で『南雲忠一』という提督だったという。

この東京空襲は、昼のことでもあり、敵さんも大型機を空母には着艦させられないから最初から東京上空を通過して、中国大陸の何処かに着陸させて逃れさせる計画だった

らしく大規模爆弾攻撃ではなく、形だけパラパラと小型爆弾だけを撒き引上げていったから我が軍の発表のごとく『我が方の損害は極めて僅かなり』で終わったがわが国の太平洋に突き出した腹の無防備ぶりを暴露してしまった後への影響を考える時、大きな陰を残していった事件だった。

この東京空襲は、その後のミッドウエー敗戦から、山本提督の戦死（奇しくも満二年目の昭和十九年四月十八日）と日本の敗戦につながって行く事になったのである。

事実、後生大事に抱え込んでいた三八式歩兵銃が対飛行機には何の役にも立たないと思つた時、なにやらゾッさせられたものだ。

こんな事件があつた後も学校は既定方針通り「教練」の教科が続いていた。

校長の情熱だ軍事訓練は続く！

『査閲』という行事があつた。年に一度、軍のお偉さんが出張ってきて、学校の教練の出来具合を評価する。という行事である。

当時の今村直人校長の願望はこの一事に集中していたのだらう、「甲州街道行軍」やら「富士の裾野」の軍事演習など四五年生は駆り出されて、苦しい葡萄前進やら、突撃訓練、小銃の空砲射撃までやらされていた。

・ ・ ・ が、そんな中でも剽軽者は空砲弾を込めて草原のボサの先端に止まったバツタを吹っ飛ばすなどきやつきやと兵隊ゴッコをやっていた。

今村校長・先頭にあり！

二棟の武道棟を背に、銃を持った五年一組を先頭に、ひと組二列横隊、後ろに二、三、四、五組と並び、一列後ろに四年一、二、三、四、五組と並び、学年毎に三百名、合計六百名が整然と居並ぶ。隊列中央には指揮刀を持った恰幅の良い青年が一步前に出て立つ。この指揮者の役は、この男しかないと自他共に認める青年、森川千里氏が指揮

刀を胸にかざして立つことになる。査閲官は一段高い「朝礼台」に立ち、副官以下先生方は段の左手に二列に並ぶ。行進に景気を添える吹奏楽隊は台の右手にタクトを構え



1943年6月富士の裾野「滝ヶ原廠舎」における軍事訓練 (加藤芳司氏提供)

た北古賀教師を前に据え、後に海軍軍楽隊を経て我が国多数のアルトサククス奏者になる海老原啓一郎氏のクラリネットを中央に、小太鼓大太鼓、シンバル、トランペット、コントラバスを従えて控える。校長先生は何処？…と見ると、何とカーキ色の「国民服」にゲートル巻きに身を固め、短靴履きの足も颯爽と森川指揮者の教歩前のところへ直立していた。

森川指揮者の指揮刀がキラメク。

北古賀教師の指揮棒が振り上げられる。

「全隊！前へ！ススメエ！」森川氏が叫ぶ！

先ず校長が一步を踏み出す。

ドンドンドンガラガッタ行進曲が始まる。ザッザッザッと隊列が動き出す。

何と日々の訓練の甲斐あつて一斉に揃っている。朝礼台前を過ぎる直前、森川氏の指揮刀が天を指し、右下に振り下ろされる。

「査察官殿に敬礼：カシラァ：右！」
校長の右掌がサツと振り上げられ、仰ぎ見る帽子の庇に添えられる。全員が右に做う。「直れ！」
・空前絶後の査察は終わった。校長の熱意に感じたのであろう。評価は『優』であった。

校長の情熱で学校に華が咲いた！

司馬遼太郎氏は云う。昭和一ケタあたりにうまれた人達（すなわち我々）は、太平洋戦争が絶望的段階に入った昭和十八年にはすでに中学生や女学生になっていただけに、精神の上で、最大の被害者だったといっている。そういう少年たちが、天皇陛下のため爆雷を抱いて敵の戦車にとびこめとか、竹やりでアメリカ兵を突き殺せなどといわれれば、それが絶対価値になってしまう。

× × × × × × ×

華の十二期と冒頭に掲（かか）げたが
こんなハナも続々登場する。・・・

♪貴様と俺とは同期の桜

同じ兵学校の庭に咲く・

最も難関と言われる「海軍兵学校」に
吉田昭二氏兄弟、太田銀二郎氏の三名

♪若い血潮の子科練の

七つボタンは桜に緞・

かの花形「海軍飛行予科練習生」に三名真っ先に

菱沼勝美氏、続いて西川光男氏、高橋敏夫（英臣）

氏、名取 宏氏、細田 実氏、加藤勇次郎氏、加藤芳司

氏、小島正義氏、伊東謙二郎氏、遠藤 賢氏、木村順治

郎氏、岩橋繁治氏、小島延清氏、高田昭秋氏、高野茂

雄氏、増田清宣氏、田中喜一氏、荻野 孝氏、菊池清吾

氏など 二十数名

入隊した彼等は、霞ヶ浦等で六〜七ヶ月訓練を受け、操縦、偵察、特攻機種など適正、志願によって全国各地の基地部隊に散らされ、地獄の猛訓練を受けたという。

真つ先の「菱沼氏（偵察）」は、夜間訓練で移動中海軍の誇る双発夜間戦闘機「月光」で九州宮崎山中において墜落、殉職されたとか・・・

「西川、高橋の両氏」は、操縦「名取氏」、「細田氏」は偵察から爆装の軽艇へ震洋の操艇に「加藤芳氏」は一人乗り人間魚雷へ回天に志願し、それぞれに必死必中の訓練中、九死に一生を得て帰還されている。

♪海ゆかば

水漬く屍

山ゆかば

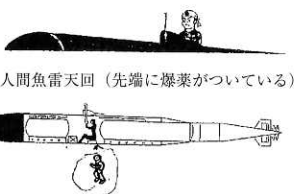
草蒸す屍

彼らは当然

「死」を覚悟して

手を上げた

若者達である。



人間魚雷回天（先端に爆薬がついている）

<回天>は大型潜水艦の背に数隻搭載されいざ出撃の際、母艦のハッチから<回天>の腹に落り込み、目標に発射されたという。

中国の旧史に登場する戦国時代（BC221）の刺客『荊軻（けいか）』が燕（えん）の太子『丹』の為に、秦の暴王『始皇帝』を刺殺しようと太刀を抱いて
大河くへ易水くを渡る、その勇を称えて

『風蕭々（しょうしょう）』として易水寒し
壯士二たび去つてまた帰らず』

の歌が現代に至るまで語り継がれている。

右の△特攻機V乗りの一人一人が『荊軻（けいか）』の勇を持つ男達であったのだ。

彼らは卒業を待たず、次々に学校を去っていった。今村校長は、この学校の教育方針の成果（精華？）である、

傍線は物故者



必死必中の特攻兵器人間魚雷<回天>搭乗を志願した若者たち。中列左端が加藤芳司氏。前列右端の青年は、終戦後、六大学野球「東大」で活躍した山崎少尉殿。右端下は加藤氏の七つボタン姿（提供加藤芳司氏）

子科練に進む十数人を集めて「壮行会」を催したそうである。
幸い、生を得て帰ることが出来たとしても十二期を語るに当たっては、欠くことの出来ない面々なのである。

*菱沼勝美氏は快活な少年であった、休み時間の校庭でのゴム鞠野球では何時も軽快な守備で球を逃がさなかった。運動神経の固まり見たいな少年が、訓練とはいえ海軍、こ自慢の双発夜間戦闘機「月光」で山腹に突っ込むとは！

*西川光男、高橋英臣両氏は、飛行操縦で厳しい訓練飛行を終わって、いよいよ特攻機搭乗という直前、幸運にも教育地移動などで危うい命を拾っている。

*名取宏氏は一種の文学少年で、自習時間中、岩波文庫片手に教壇に駆け上がって、モーパッサンの「女の一生」を講じるといふ早熟少年であり、『蝌蚪（おたまじゃく



震洋特別攻撃隊〔部分〕
出撃服に身を固めた「名取」「細田」両氏 提供高橋英臣氏

し)の仲間でもあった。

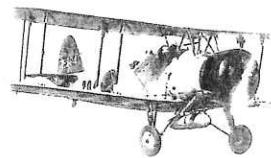
* 細田実氏は西川氏と同期で志願していたが名取氏と同じ、△震洋V訓練に回されていた、無事帰還したが、戦後早い時期に名取氏と前後して鬼籍の人となっている。△震洋Vという兵器はベニヤ製の短艇で、艇首に爆装し、体当たりさせる特攻兵器だったが島陰に潜み、外洋に出れば大波に弄ばれて使い物にならなかったという。

* 図形I上段一型震洋艇(一人乗り) 下段五型震洋艇(二人乗り)
* 加藤芳司氏ほかの人間魚雷△回天Vの一人用特攻艇で、九州宮崎日向の細島という秘密基地で密かに訓練していたという。

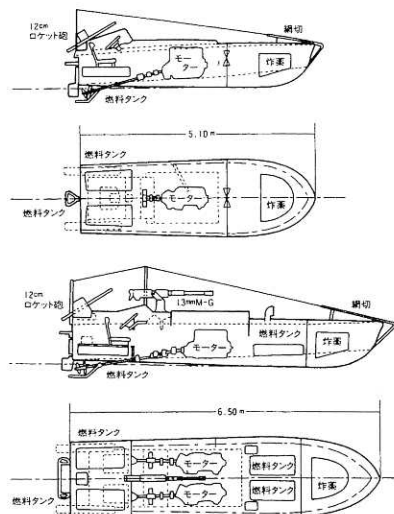
必死の特攻兵器△回天Vの乗り組み訓練を受けていた同期生がいたとは驚きである。一旦乗り組んで蓋を閉められた以上、生きては還れないという『必死の特攻兵器』だ。

昨年十一月一日の同期会「三萬天寿会」で当時の写真を見せられてビックリした。

よくぞ生きて還れたものだと感嘆に堪えないが後で何うところによると△回天Vという兵器が生産に間に合わな



250キロ爆装
流星特攻隊機



ったということだった。

とは言え、さきにあげた壮士「荊軻(けいか)」の覚悟そのものではないか、つくづく脱帽である。

他にも特攻兵器として数種が制作されていたようだ。例えば△桜花V爆弾に翼をつけてロケット推進にし、一式陸攻(双発の陸上攻撃機「一式ライター」と言われた)の腹に着け、敵艦上空で切り離してぶっつけるという一人乗り特攻機とか、△蛟龍Vと名付けた二人乗り特殊潜航艇とかいうもので、ともに出撃したら還れないという自殺兵器だった。

それらも満足に成功を得られない速成兵器で、戦果は期待に反していたらしい。

他の諸氏については、ご紹介する情報を得られなかったが、右のような特攻機で訓練させられていたに違いない。

震洋隊は戦果以上に戦死者が多く激戦地(沖縄、比島等)に配属された部隊は全滅同様の被害を蒙ったといわれている。

あれから六十余年、本当に、ご苦労様でしたと申しあげるほかない。

* 右の予科練に関する記述は主として(一等飛行兵曹)高橋英臣氏の記録に負うところが多い。
氏は予科練の訓練風景を克明に記録していた。
氏の実体験を左に、ご紹介してみよう...

特攻隊で夜間飛行訓練を終えて兵舎へ帰ると、年配の補充兵が「おじや」を出してくれた。旨かった。ほっとした一刻でした。入隊した頃の漠然とした死の覚悟とは異なり、毎日が死と直面した生活。特攻機も迷彩され、出撃命令が出れば直ちに二五〇キロ爆弾を抱いて漆黒の夜空へ敵艦を求めて飛び立つ覚悟でした。燃料もガソリンではなく薩摩芋から採ったアルコール燃料のため馬力も落ち、上昇も旋回も緩やかに行わないと失速してしまう。誠に手間のかかる武器?で飛ぶ棺桶でした。幸い多勢の仲間から選抜された者たちで編成されている為操縦の技術は良く大事故も無く夫々一発必中の自信と覚悟で訓練に励み、出撃に備えている毎日でした



昭和十九年十一月
高橋一等飛行兵曹の勇姿
そして...終戦

「加藤芳司君」壮行会 ダンディボーイズ勢揃い

昭和十八年春、加藤芳司氏が「予科練」入隊が決まり、級友有志が三商屋上に集い、記念撮影の一ショットです。
(中列中央が加藤氏)
揃って背広の制服を五年生迄着られたのは多分われわれ十二期生までだったと記憶しています。
懐かしいイデタチなので、ご紹介してみました。

*私(内藤)が「横須賀海兵団」に見習い入団した時、この制服を見た水兵上りの分隊長(兵曹長)が「おいそれこのへ町人服はこの学校だ」と蔑んだ。…私は「天下の三商だ」と言い返した苦い経験があった。



「第二話」

華の十二期

それからののはなし 後日譚

ヤヤ、なんと草色の七つボタン？

昭和十八年十二月、私たちは三ヶ月繰り上げて卒業となった。
後れ馳せながら、私も七つボタンの末端に連なる道が開かれていく。

就職組の私は清田先生の紹介で「国際電気通信講習所」(KDDIの前身)に入所、一年間電気通信技術(トットー技術からオームの法則まで、サイン、コサイン、タンジェントから力学理論まで)を学ぶことになる。商業学校から一八〇度転換の勉強である。
チンブンカンブン殆どお手上げであった。

ほぼ一年余を経過して、十九年秋、徴兵検査で「第二乙種合格」の宣告。と同時に『海軍経理予科練習生募集』の情報を受かされた。

近眼やめまいの虚弱体質は飛行科は無理でも経理ならお逃さだ。この時期家はB二九の空襲で焼かれ帰れる処もなく、陸軍の新兵で小突き回されるより七つボタン最新期のチャンスだ、この時とばかり志願の願書を出した。
恐らく最新期の予科練生なんだろう。五月早々横須賀駅前に集合の通知が来た。

約二カ月の横須賀武山海兵団で初年兵訓練、入団早々初年兵なのに兵長の扱いなのだそうだが教育係は、開戦以来海軍得意の夜戦で撃沈され、油の波を潜った歴戦の古年次兵曹ばかりその扱いのキツイこと。アゴ(鉄拳制裁)や、(バット海軍精神注入棒)の嵐であった。
空襲警報下の訓練(手旗、結索、カッターの漕艇など、

ごく初歩の訓練)が終わる頃、待ちに待った七つボタンの夏服(二種軍装)が支給された。

何と純白の制服かと思えば、まだらの草色に染め上げた色付き七つボタンであった。もとは当然白であった筈が、敵機に目立たないように慌てて緑の染料を大鍋にぶち込んで煮上げたような代物で、ところどころ染料が薄まって多彩模様の粗製品だった。しかも寸法が縮まって、大柄の少年ではツンツルテンの姿になった。

「体に服を合わせるのではない、服に体を合わせるのだ！」教班長は叫ぶ。

「そんな無茶な！」と不服を抗弁すると、「それが海軍式だ！」と怒鳴られる。大騒ぎだ。

それでも体の大小と、服の大小で譲り合わせてブカブカ、ツンツルテンは、多少の我慢で収まることになる。

初期訓練が終わって六月下旬、東京の経理学校の本校に移ることになって、紺の一種軍装が支給される。これこそ本物だ。
体に合いそうな一着に着替えると、すぐ写真撮れと命じられる。

やや腹の部分が太く不格好だ。ならば服の裾(七つボタンは腹の部分で短く切れているそこが傘のごとく開いている)を腕を後ろに回し絞れば格好よく撮れると撮影係はいう。

他の七つボタンの写真姿を見れば、揃って片手が体に隠れている姿に気が付くだろう。みな裾を片手で絞っていたのだ。

その姿をすぐ紙焼きにして銘々に渡すから直ちに家に送れと指示される。

後になってこれは「遺影」なんだと気付いた。

この時期戦局は益々苛烈、不沈戦艦のはづの『大和』の沈没と、山本連合艦隊司令長官の戦死など、我が海軍は壊滅していたのだ。

何の為の若い練習生の募集だったのか？

東京の経理学校(築地の校舎は分校、新しい品川が本校だと言われた)私は品川だった。

品川に着いてみて分かった。

本土決戦は目前。若い男達は皆陸軍Vが吸い上げて行く、本土防衛の若者を集めるには予科練習生Vが、それ

も七つボタンが最も有効だ。

だから飛行科をわざわざ除き経理、電探、砲術など近眼だろうが、弱かるうが七つボタンを餌に釣上げようとなったのだ。まんまと海軍の策に嵌った青少年が敗戦目前の予科練に集まったと「いう訳である。昭和二十年夏（八月十五日の約二カ月前）我々経理学校組は二組に分かれ、制服に身を固め、東京に移動した。

武山海兵団の門を出る築地組の紺の集団の中ほどに、品川組を振り返ってニヤリと笑う背の高い男がいる。紺の集団の中から振り返れば顔ははっきり分かる。品川組の前方にいた私に笑っているのだ。なんと「斉藤充氏」だ。後に△横浜高商△に横滑りし、△横浜国大△に進み、三商にも奉職し、後年「全国商業学校長協合理事長」にまで三段跳びする。

そして終戦

二カ月足らずの経理学校生活は、午前は学科、午後は訓練（海軍なに対戦車攻撃一体当り）か新校舎の取り壊し（速成バラック二階建ての間の引き）か、防空壕掘り、合間に空襲警報の退避で右往左往するばかり。

何のこともやら経理学校生徒というより、死を待つ特攻兵士か使役人夫といったところ。

八月十五日、正午、聞き取りにくいラジオ放送で、敗戦を知る。翌日より食事は銀めしより雑炊に変わり、これまで構内駆け足の命令が解除され学校の河口に構築されているお台場倉庫から、備蓄物資の運び出しなど作業に駆り出される。

お台場の川向こうには、指呼の間に『三商』がある筈だ。急に里心が沸いてきた。

八月二十六日（皮肉にも丁度私の誕生日）後始末の切りのついた頃、退校となった。

学校の正門の前の運河に『御盾橋』と名付けられた小橋がある。

「きょうよりは かえりみなくて おおきみの しこのみたてといでたつわれは」と

歌って渡った橋を
「今日からは 醜の御盾となれずして

見返りもせず 立ち去る我は」と
首うなだれて後にしたのである。

大急ぎで三商五年間とその後を述べてきた。
ご覧の通り軍国少年の五年余であった。

一夜に何千何万の無辜（むこ）の老若男女を殺された空襲の恐怖、芋、大根、雑穀を食わされた空腹恐らくこれからの少年少女は経験することのない稀有な経験の時代だったのだろう。

でも何と口惜しくも懐かしい想い出を持つ時代だったのかとも思う。以来六十年目。

戦後の混乱―闇市―朝鮮戦争―東京オリンピック―六〇年安保騒動―テレビ時代―高度成長―不動産バブル―ブル崩壊―米国発大不況―民主党登場―と波乱の連続だった。

それからの 華の十二期！

年末になるとNHKテレビで放映している司馬遼太郎氏の小説『坂の上の雲』を見る時、明治の時代もまことに稀有な時代であったが、昭和の時代もまた稀有な時代であった。この違いは明治の時代は『勝ち』の時代だったに對し、昭和の時代は『負け』の時代ではなかったかとも考える。

この中であって十二期は多彩な人々を世に送り出している。
次に記憶に残る方々をご紹介します。

尤も、これは私個人の双の目、双の耳に知れた情報に限られる。こんな人もいたの！とお叱りを受けるかもしれないと恐れながら私流の、ご紹介でお許し頂きたい。

真つ先に挙げたいのは、国学の泰斗『芳賀登筑波大学名誉教授』である。商業校からスタートしたのに小難しい国学とは意外な進路であるが、私の記憶にある先生は、一二年次の運動会の徒競走で武道場前のコーナーで、歯を食いしばって私を追い抜いて行く小柄な少年の、懸命に走る姿があった、私は追いつけなかった。その少年が芳賀先生

である。

同じ『登』の名前に親近感を感じていたのだが先生と私の世を走るコーナーが違っていた、あの懸命の姿勢が国学に向かったのだろう。

面白いことに（といつては失礼だが！）先生が二十年も費やした研究テーマは、渡辺（登）華山探訪であった。

渡辺登（華山）は、幕末の頃三河地方の小藩「田原藩」の江戸家老であったが、かの蘭学研究で高野長英と共に幕吏の追求『蚕社の獄』を受け藩に迷惑を掛けまいと自刃を遂げた士魂の人であった。江戸で生活するうち、江戸人の生活に興味を持ち、その風俗画を数多く自筆に残している。



*芳賀 登先生著
『士魂の人 渡辺(登)華山探訪』
つくばね舎発行 TEL 03-5688-8791
本体価格 2,500円
郵便振替 00190-7-189285
☆興陳のある方、ご一読をお薦めします。

士魂の人 渡辺華山探訪

芳賀 登



芳賀先生はその絵を丹念に蒐集して一本に纏めあげ刊行された。この執念は少年時代からの人柄であろうと敬服する。

一筋の道といえ、この方を逸することは出来ない。：「日本武道学会会長」を勤められた『田中(旧姓小田川)鎮雄氏』である。

三商卒業後、東京高等師範(剣道専攻)へ進み、芳賀氏と同じ文理科大学(教育学)、東大大学院と剣の道ひと筋を歩み、日本大学教授の傍ら、日体協のスポーツリーダー並びに、文部省主査として高校剣道教員の資格認定など公職にも献身するというこの道一筋、斯界の最高峰に達した『達人』と申し上げべき方である。

昨秋の同期会当日までそれを存じ上げなかったという私の不明を恥じるほかない。

次は東大新聞研究所長だった『稲葉三千男氏』である。マスコミ論で著名、またマスコミ共闘のバックボーンでもあった。後年東久留米市の市長に選ばれ、象牙の塔から娑婆への転身で苦勞されたようでも市長職三期目、病を得て逝去された。

左翼系?なのになに：
酔うと大声で歌うのは何と「海行かば」だ！三商出身を窺せる姿ではないだろうか。

氏は市川廣康、木村順治郎両氏、及び私等が発行する小冊子『ピタノバ』(新生の意)という同人誌の良き助言者でもあった。

その市川、木村両氏との付き合いは、昭和四〇年頃始まった。この両氏と田中三代吉氏は在校以来、例の「蝌蚪(おたまじゃくし)」の交友関係で、すでに同人雑誌「原型」一の会を結成、後援者の石川恵一氏(彼も同期)と共に語らう仲間であったが、木村氏は小学館に勤務する社員。私も広告会社に勤める社員と共にサラリーマン、同じマスコミに生きる社員として交流があり話し合う内、同人雑誌「原型」を改題し「ピタノバ」というのを作るから参加しないかと木村氏に誘われたのが、同じ三商卒のよしみ、仲間に参加することに賛成した。

以来四十年余、つかず離れずの付き合いになっていった。「ピタノバ」は平成五年ごろ創刊、春秋年間二冊の発行毎月五千円の会費で始まった。

それから七年十四冊の「ピタノバ」を世に出したが、書き手は市川氏の創作作品、木村氏と私は思ひ出話、と内容が乏しく、同期以外も二、三人参加し五、六十頁のものに仕上がったが、ひとりふたりと同期外の人は去り、遂に書き手は木村氏と市川氏と私の三人しかいなくなり、木村氏が喉頭ガンで入院、田中氏も奥さんが病気で書けなくなり、木村氏の逝去と共に休刊と廃刊となってしまった。

泣き言めくがその間に、甫州氏は亡き義父順武林夢想庵『遺作の出版に奔走したり、木村、田中両氏の闘病があったり、私の会社の行き詰まりなど、同人誌どころの騒ぎではない事情も重なり、遂に平成十四年同人誌「ピタノバ」は終焉となってしまった。

先輩、柴田榮一氏が、『三商同窓会報特別号第四七号』に「三商含羞の系譜」を書かれ、その一部に「ピタノバ」を好意的に取り上げてくださった。このことに感謝申し上げ、「ピタノバ」もって瞑すべしと深く感じる次第である。

さて、十二期異色人材のご紹介を続けよう。
この期の特色は教育界に送り込んだ人数が多いことと言えよう。

芳賀、田中、稲葉など三氏のほかに、中大教授中山隆次氏、彼からは毎年、同期会はまだかと再々希望の賀状を頂いた、果たせず逝かれてしまった。相済まなかったと思っ

ている。
逆に、三商からお隣の商船学校に岩井健三氏と共に進んだ加藤俊夫氏は、海軍予備学生に転身任官したが終戦で東大に横滑りし結局愛知大学教授となり、現在老母の介護で名古屋を離れないという事情があった。他に芦川長三郎成蹊大教授など、大学教授は十人に迫るとい

う。
高校教師に至っては、日体大に進んで三商に奉職したご存じ吉岡鶴義先生は未だに三商に愛情を残し、役員メンバーにとどまっている。

更にまた古暮正雄、磯川運良両氏は、三商に止まり、終わっている。先の斎藤充氏もその数に入れて良いのではな

いか。
日体大に吉岡氏と共に進んだ、森川千里、飯島桂一、野瀬芳之各氏は他校の体育教師になっている筈である。

語学の方は(多分英語)茨城県で高校教師時代得意の英語を駆使して、単身自動車でオーストラリア一周を試みた鈴木康之(旧名安太郎)氏なんて度胸の固まりみたいな方もいる。

私ら一般人から見れば、教職とはまことに羨ましい職業に見える。その立場、立場によってご苦勞もあつたであろう。
その見返りとして、送り出した学生、生徒から長く慕われ、その弟子たちが世に活躍する場を得れば、満足という至福が得られる。

文芸面では、東芝EMI社(音楽出版会社)の幹部でいながら歌道で佐藤佐太郎氏に師事し、定年後は歌集『運河』を引き継ぎ、主幹として弟子等多くを擁し、斯道に専念している山内照夫氏がいる。

また、俳諧の道では「清波」という俳号をもつ大嶽清氏がいる。かつて、生鮮市場の顔役『三水会』の役員を勤めながら俳諧の道に精進し三商の第?代同窓会長と十二期会長も兼務するという多忙をこなす。校歌会も指導する多芸の主である。

俳句といえ「ピタノバ」の市川廣康氏、ピタノバ休刊後、句作に集中し、句集も自己出版したし、現在も第六集を計画中である。

作家としては山田勝雄(筆名津田信)氏がいた。直木賞、芥川賞候補計八回という記録を文壇に残し「小野田寛郎少尉物語」を最期に早世した。氏に關しては三商同窓会報第四七号に十期柴田榮一氏、十九期大村彦次郎氏の寄稿文中にそれぞれご紹介頂いているので、重複を遠慮させて

頂きます。

次は、実業界に移ろう。といっても、その大多数は現役から退かれています。その軌跡を辿るに止まることしかできまい。

筆頭は北村弘氏を挙げたい。かの世界の商業都市のトップを目指す、アラブ主長国連邦ドバイの一角に超高層ビル建設に名乗りを上げ、また、アジアとヨーロッパを結ぶボスポラス海峡一かつてUボートが英米の商船を待ち構えていた海の底に、海底トンネルを通うそうと計画し工事中の世界的建設会社、『大成建設』の技術研究所長を勤め上げ、その基盤を築いた名士である。

最近同氏の話を知るところによれば、技術的にはその困難さは克服できるが、世界的経済の不況の中では、採算を割る仕事をせざるを得なくなるとのことであった。

その名士と面接出来たのは、当時自民党代議士の遊び場であったゴルフ場「千代田カントリークラブ」の副社長石川恵一氏と同行させて貰った上の幸運である。

石川氏は三商七期の出世頭、世界の商社『三井物産』副社長の鬼頭誠一氏との面接の節も、同行を許してくれた。

彼はさきに「ビタノバ」の後援者の一人であったと紹介したが、稲葉三千男氏との関係も石川氏が所用で東大に行った時、赤門の側でバッタリ逢ったという偶然の出会いから始まったのだそうで縁は異なるもの、その結果稲葉氏は「ビタノバ」を知ってくれ、グループの交友が始まったということである。

実業と言っても、商業学校出身者である。家業を継いで成功した事業主が多い。

* 大阪の製薬会社「命の母」の笹岡正治氏

* 服飾デパート「株べる」の鈴木義雄氏

* 割賦百貨店の嚆矢「大丸」の井門昭二氏

* 袋物製造「西川」の西川光男氏など

セールス業務に情熱を注いだ方々もいる。

* 「男は黙って〇〇ビール」の月岡敏吉氏

* 「白い帆船スコッチウキスー」の高橋英臣氏

昭和の高度成長期、銀座・新宿は元より、何処のバー、クラブを覗いても置いてない店は無かった程のお二人の活躍ぶりであった。

あの時期、我々は良く働いた。と思いつ返すが、中には三商時代、帽子にボマードを塗り込み、ポケットに肥後守を忍ばせた少年も、また、吉原を探索してその細見を、休み時間の教室で報告会を開く、豪の者も居た。

その後の様子は詳らかではないが、それぞれ所を得て、懸命に働いていたのであらうと想像するに止まる。要するに、二千余人から選ばれた三百余人でも人は様々だ言うことになるのだろう。

しょうねんおいやすくがくなりがたし
少年 易 老 學 難 成

いっすんのこういんかろんずべからず
一寸 光 陰 不 可 輕

いまださめらずちどうしゅんそうのゆめ
未 覚 池 塘 春 草 夢

かいぜんのごようすでにしゅうぜい
楷 前 梧 葉 既 秋 聲

島倉千代子さんの歌ではないが
「人生いろいろ、人様々」なんだろう。

△百歳萬歳といわれる時代。われわれにとつては、あと僅か十五、六年、その何人がこのゴールを超えられるか。

今やお互い、既に秋聲どころか「枯れ枝」になっているのを知る、失った過去を偲び、ただ祈るしかあるまい。

ホタルの光り 窓の雪

徒然の月日重ねつつ

いつしか歳も過ぎ行きて

今こそ別れめ いざさらば!

三商の諸先生、先輩諸氏、後輩諸君、諸嬢よ学校を大事にして下さい。

又、あの戦争で物故られた、諸先輩、同窓生の方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。 おわり

* よしなきことを縷々申し述べて参りましたが、年月が立ち過ぎて錯誤が多々あり、また、文中ご紹介が行き届かず取り落とししたり、礼を失したりした諸兄各位に対しても、心からお詫び申し上げます。

『同窓会マップ』創刊号発刊のご案内

本年五月十五日、「都立第三商業高校同窓会マップ」(A4版全三十四ページ建て)が発刊されましたのでお知らせ致します。

都立第三商業高校
同窓会マップ

日本の富を担ふわれら

創刊号

大澤 昇都議会議員に 要望書の提出



事務局 副会長 三浦康二(三十一期)

母校都立三商の校舎及び施設改修計画に対して、大澤都議会議員に三商同窓会としての要望書を一月四日(土)



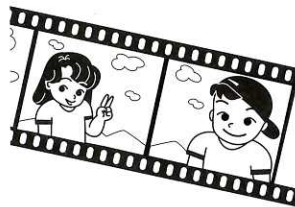
に都庁の民主党控室にて実情の説明と共に、木戸前会長、柴崎会長、岩瀬副会長と共に要望書を提出致し、お願いを申し上げました。

要望書の骨子

- ① 校舎敷地の効率的な使用を図るため、次代を見据えて新たに基本的設計案を策定する。
- ② 運動場の現況は狭小であり、各種部活動に支障をきたし、かつ危険な現状を配慮すれば、抜本的な新校舎改築計画を進行する。
- ③ 全体設計上は、新校舎を現正門側に配置し、非効率的な商業実習棟を除去して、公式試合を含め、各種競技

④ の可能な運動場として、運河側へ拡幅する。稼働していない食堂、厨房等の効率化を再考し、階段室の容積縮小化に伴い、昇降機等の近代施設の新設が必要である。

以上の四点をふまえて図面等を含めて詳細な要望書を手渡すことができました。大澤議員からは「議会等を含めて関連部署とよく検討しながら要望にそって進めていきたい」と返事をいただき、学校側にもその旨、報告され母校の今後の校舎改築の進展に期待をしております。



都立三商同窓会

陳情書

東京都財務局長 殿

- 1. 校舎敷地 21,320㎡(約6,450坪)を所有しながら、野球、サッカー、テニス等が運動場の配置が悪いため使用できない。
- 2. 智育、徳育、体育の高校生活で、然も野球と音楽に才能のある生徒を優先入学をめざして、現今このような設備状態では誠に残念である。
- 3. 現在では他校に依頼してグラウンド、又は施設を借りて練習していることは、交通費及び時間的ロスを考えると、いち早く私達の要望する新しい設備内容をご覧頂き改善され度く、この旨お願い申し上げます。
- 4. 平成22年1月20日までに都議会に上程される前に当方の要望書をご検討頂き、三商実習棟の建て替え、修繕箇所承認を得る前に、三商の校舎の新建設にご尽力をお願い申し上げます。茲に要望書を作成した次第です。

都立第三商業高等学校 同窓会一同

平成21年12月25日

同窓会会長 柴崎 晴雄

三商祭のおしらせ

10月16日(土)



<http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/>

活版印刷で現代の名工に！ 中央区から表彰された 28期吉田昇弘君を紹介！

二十八期 鷺 嘉雄

*昨年（平成二十一年）十一月三日、地元中央区長から活版印刷技術継承者（いわゆる現代の名工）として表彰されました。



*私たち二十八期生は昭和三十六年に卒業し、あと二年後の平成二十四年には古希（七〇歳）を迎える年代になってきました。卒業後の同期会も四年に一度オリピック開催の年に行っており毎回一〇〇名前後の同期の桜が集まりにぎやかに懇談会を行っております。

*卒業後の進路はどの期の方々も同じ経験だと思えますが希望どりの人生を送ってきた人、曲がり角に何度もぶつかりそのたびに這い上がり歩んできた人、まだまだ現役で頑張っている人、等等人生それぞれまさに「人生いろいろ」です。

この二十八期中で今回紹介する吉田昇弘君は、三商卒業後は、中央区入船の実家で親の代から続いている印刷業を営んでおり、お子様二人はすでに独立、美しい奥様と二人で印刷に携わっております。

私を含め大多数の同期がサラリーマン人生を卒業し第一線から退いている中で今でも仕事に打ち込めるとはうらやましい人生だと思えます。

*前述のように私たち仲間は四年に一度の同期会、適宜のクラス会等でにぎやかに懇談会を行っていますが、その他に吉田君はじめ8人の仲間でも「かわせみ会」（小説・御宿かわせみ・平岩弓枝作・の舞台、江戸の町を楽しく歩き学ぶ会・鈴木孝一君、内田利雄君、土屋勇君、吉田昇弘君、吉野和敏君、小林慎典君、鷺嘉雄君、小松山光男君（後輩））を立ち上げ、平成九年から勉強会を行っており早いもので十三年目を迎えております。

*昨年末この「かわせみ会」に吉田君から「活版印刷技術の継承で中央区から表彰された」との朗報をいただき「これはおめでたいこと」とお祝いは何度やってもいいことと解釈し皆で乾杯を繰り返しましお祝い会を行いました。

*そして年が明けた平成二十二年正月にあらためて「祝う会」を行い一杯飲み交わす中で「現代の名工」が仲間の中から生まれたことはわれわれ二十八期の誉であり、三商の名誉でもある。ついでには同窓の友に紹介したらどうか、それには三商同窓会報でとりあげてもらったらどうか、等々が出され皆さん意見が一致、なぜか万歳で閉められました。

と言うことで今回中央区入船の工房（ご自宅）に訪問し取材をさせていただきました。

*ご本人とはいつもお会いしてはおりますが工房への訪問は久しぶりでした。

訪問日、平成二十二年五月吉日
吉田昇弘君、奥方 三代子さん同席
聞き手、鷺嘉雄

W：あらためましておめでとうございます。
Y：どうもありがとうございます。
W：私どもの会「かわせみ会」でささやかながらお祝いをさせていただきますでしたが地元印刷業界でも大変でしたでしょう。
Y：おかげさまで同業者の方々からお祝いをしていただきました。今回の表彰は業界仲間の後押しがあったことに感謝しております。
W：活版印刷の技術継承者いわゆる現代の名工として表彰されたことは我々二十八期の誉れであり三商同窓生の名誉でもあります。このことについて今回、同窓会報

に紹介することにになりましたが、あらためて表彰の内容容表彰に至るまでの経緯をお話ください。
Y：私が住んでいる中央区では地元で顕著な業績をあげた人々を皆でもりあげ、讃え、そしてお祝いをしてゆこうと言う目的で中央区表彰規則と言うものを制定し毎年十一月に表彰式を行っております。各種功労者表彰は「十一」の分野がありますがその内の「実業技術の継承及び発展」で表彰されました。表彰に至る経緯は東京都印刷工業組合京橋支部からの推薦とあわせ地元町内会の推薦もいただき、最終的には中央区長さんから招待状が届き昨年の平成二十一年十一月三日中央区立中央会館「銀座プロッサム」で表彰されました。身に余る光栄です。



W：活版印刷技術の継承者および発展に貢献された表彰ですが吉田印刷の歴史を教えてください。
Y：私の父が昭和二十二年に今の入船の地に創業し今年で六十二年になります。当時の従業員達から技術の伝承を受け早いものであつという間の五〇年になります。W：基礎的な質問で申し訳ありませんが、活版印刷方法はどういうものですか？
Y：①まず文選といって活字を一つ一つ拾い上げ②植字といってその活字を原稿にそって組版を作る③その組版を印刷機にのせて印刷するそして納品です。
W：中央区内で吉田印刷の他に活版印刷を行っている業者仲間はどこくらいおられますか？
Y：京橋支部では私のところを含めて二〜三軒です。
W：奥様を含めて家族からのお祝いは何でしたか？

Y：女房からは「吉田家に嫁に来てよかった」と言われ
 ました。子どもからは「おめでとう」だったかな。
 そして親族一同で門前仲町で祝宴を催しました。

W：吉田君、奥様貴重な時間ありがとうございました。
 これからも健康に留意され地元のため、業界のため仲
 間のためご活躍ください。

エピソード：

私たちの仲間は吉田君とは長いお付き合いをさせていた
 だいておりますが、エピソードの一つとして紹介しま
 すと、我々の飲み会と印刷業界の寄り合いが重なることが
 多々ありますがいつも仲間に気遣い差し入れをそして業界
 の方々を大切にしている姿勢には心打たれます。

そして地元鉄砲洲稲荷神社の氏子として祭祀にまた、地
 元町内会をとりまとめ、さらにご家族を愛する心が地味で
 はありますが印刷技術の中にも「和の心」が生かされてい
 るのではないのでしょうか。

これからも業界、地元、仲間、家族と健康で楽しく仕事
 をしておおいに遊んでください。

☆吉田印刷所の沿革☆

*昭和二十二年父が個人経営として「吉田印刷所」を開業。
 昭和二十九年一月法人組織として「株式会社吉田印刷所」
 となる。

*昭和三十四年十一月、昇弘三商二年の時父が逝去、叔父
 が引継ぐ。

*平成十一年三月叔父が引退、同年四月昇弘が引継ぎ今日
 に至る。

☆推薦理由☆

吉田氏は東京都印刷工業組
 合京橋支部の会員として、長
 年にわたり支部活動を通じ印
 刷業界の発展に貢献されてい
 る。

特に吉田印刷所は区内でも
 少なくなった文字を組む「活
 版印刷」に携わっており、印
 刷発祥の中央区の伝統と歴史
 を守っている。



私の履歴書

わが珠算人生

二十三期 大石傑一郎



私は専修大学校友会台東支部に入っています。本誌の編集責任者の松田さんは、前支部長の畑正二郎さん、現支部長の藤原主計さん、支部の佐藤明さん、山崎晶久さん等と親しく、よく台東支部の総会、新年会、納涼会等に見えられます。そのいつだったかの折に、どなたかが、私が珠算で頑張ったことを松田さんに話したことか

ら、珠算について投稿するよう求められました。

自己宣伝することでもないと思いましたが、顔を合わすたびに「書いてほしい」と催促され、その熱意にほだされ、私自身も自分の人生の記録を、子や孫に残しておきたいという気持ちになり、ペンを執ることにしました。すでに遠い過去のことでもあり記憶が曖昧なので、正確を期すために、タンスの奥に仕舞ってあった珠算競技大会の賞状をも辿りながら進めていこうと思います。

珠算大会でもらった賞状の数は小学、中学、高校、大学で一〇〇枚以上になります。その都度、会場で名前を読み上げられ表彰を受けたわけですが、私の下の名前が読めず、「入賞、第〇等、大石・・・」そして小声で「君、名前は？」「キョウイチロウです。」

マイクにそんな遣りとりが、いつも入っていました。「ケツイチロウ」と読まれたことも何度もありました。「キンイチロウ」と云うのもあり、会場の皆さんには字の表示がないので、これには人体のある部分を想像して大笑い。これにはずいぶん恥ずかしい思いをしました。大学時代は、選手としてある程度名前が知れていたのに、その思いはしなないで済みました。

一、珠算との出会い

小学校五年生の頃、私は母のオマケみたいに、母が入っていた近所の百人一首「みちのく会」のカルタ会に付いて行っていました。週一回くらい行われていました。が、門前の小僧同様、意味も分からないのに見よう見真似でやっているうちに、大人を相手に対戦しても一枚、二枚と取れるようになり、それが面白くて熱中し、二、三年後には大人ばかり三〇名くらいの会で、トップクラスになりました。読み上げられるカルタをいかに早く取るかは、集中力が勝負です。実は珠算も集中力で、百人一首をしたことがプラスになったと思っています。

それに剣玉も遊び仲間では負けたことはありません。生来の手先の器用さも、珠算には向いていたようです。百人一首は台東区立蔵前中学校（現浅草中学）一年生の時に、みちのく会のメンバー五、六人と芝の増上寺で

行われた百人一首東京都大会に出場しました。成績はた
いたことがありませんでした。

戦後の子供達の習いごとは、学習塾などまだなく、珠
算と書道でした。珠算の方が遙かに盛んで、どこの塾も
満員でした。台東区立精華小学校（現蔵前小）六年生の
時に友達が通っていた河野博先生（故人）の蔵前速算研
究塾に入りました。昭和二四年七月のことです。

学校で算盤の基礎を習い独習をしていたので7、8級
の力はあったと思いますが、先生に目を付けられ、学校
の夏休みに特別練習するよう命じられました。同じ精華
小六年生の荒野直一さん、安藤彰彦さん（同級生）、私
の三人が一日五時間の猛特訓を受けました。これは夏休
み以後も続きましたが、二月に開かれる東京珠算教育連
盟主催の東京都大会に自指導して下さいました。出場し
た生徒が好成績を取れば、塾の評判も上がることはい
うまでもなく、当時、この大会には東京中の珠算塾が競
つて選手を送っていました。私は小学生の部の「総合」
で3等、初出場で初入賞でした。確か団体でも、河野塾
は3等に入賞したと記憶しています。

なお珠算大会の競技種目は、

- 一、団体競技（三人の個人総合得点の合計）
- 二、個人総合競技（乗算、除算、見取残の合計得点）
- 三、種目別競技（読上算、読上暗算、見取暗算等）

になっています。

河野先生の猛特訓のお陰で、入塾三カ月目の九月に、
いきなり能力検定の五級と四級（四級以下は東京珠算教
育連盟主催）を受けたら合格。そしてその三カ月後の一
二月に3級（3級以上は商工会議所主催）を申し込んだ
ら、河野先生から「ついでに2級も受けてみたら」と云
われ、同時に3級、2級に合格しました。これには我な
がらびつくりしました。翌年の小学六年生の二月に行わ
れた攻玉社高校主催東京都小学校大会では、「読上暗
算」で1等を獲得しました。

二、中学時代

昭和二五年四月、蔵前中に進み、クラブ活動は珠算部
に所属しました。顧問の瀬川順三先生にご指導いただ
き、河野先生の塾では高校生二人くらいと中学二年生の
私が助手をつとめました。習いに来ていた小、中学生の
父母は、私については「こんな子供に教わって」と思っ
たに違いなく、先生の勇氣には今もって敬服していま
す。それでも教え方が上手だったらしく、好評のよう
でした。

中学時代の主な個人成績は、

一年生の時 京華学園主催東京都中学校大会「読上暗
算」一等。

二年生の時 芝商業高校主催東京都中学校大会「読上
暗算」一等。都立市ヶ谷商業高校主催全東京中学生大会
「総合」一等。

東京都珠算教育連盟主催全東京大会中学生の部「総
合」一等。

三年生の時 台東区教育委員会主催区立中学校大会
「暗算」一等。都立台東商業高校主催全東京中学校大会
「読上算」一等。

都立第三商業高校主催都下中学校大会「総合」1等。
都立第一商業高校主催都下中学校大会「総合」1等。
覇を競ったのは同じ蔵前中の二年先輩の浅野修一さん
（公認会計士）、深川二中の谷内幸雄さん（元都立商業
高校教諭）、鈴木恒男さん（新宿高野元専務）、内山泰
男さん（自営）等です。浅野、谷内、鈴木、内山さんと
は都立第三商業高校の珠算部で一緒にになりました。

三、三商時代

いま云ったように私は、都立第三商業高校に入学しま
した。昭和二八年四月のことです。都立第三商業、都立

第一商業、それと都立芝商商業は《東京三大商業》と呼
ばれていました。入学するなり、珠算部長の浅野修一さ
んから呼び出され、「明日から練習するから来い」と云わ
れ、嫌や応うなしに珠算部に入れられたわけです。

こういう高校だから珠算のレベルも高く、二年先輩の
浅野修一さん、一年先輩の谷内行夫さん、伊藤忠良さん
（市川珠算振興会副会長）、瓦友宏さん（日本リトルシ
ニア野球協会関東連盟理事）、同期の鈴木恒男さん等と
切磋琢磨して、大会には連れ立ってよく出掛けました。

顧問の杉原勇太郎先生（故人）、椎名義明先生（故
人）長谷川正男先生も「一商と芝商に負けるな」と熱心
で、夏休みに椎名先生の千葉市の自宅で、選分の塾の生
徒を出場させたくて、熱心に手クラス七、八名が合宿し
たこともあります。

浅野さん等に教わり、珠算実務検定の方も一年生の六
月に2級、二年生の十一月には1級に合格。珠算部長は
浅野さん、谷内さんに継いで、昭和三〇年度は私がつと
め、私の後は柿沢秀一さん（自営）に引き継ぎました。

高校二年生の時に、近所の二、三人のお母さんから「う
ちの子に算盤を教えてほしい」と頼まれたので、大石珠算
研究会と名付けて、蔵前の自宅で七、八人の小学生に教
え始めました。それはまるで寺小屋のような塾でした。
昭和二九年七月のことです。

すぐに生徒が増え始め、開塾して一年後には、一〇〇
名くらいになったので庭の物置小屋を取っ払い、増改築
をして対応しました。高校生が珠算塾を経営している事
に、世間からいろいろ云われましたが、教えるのが好き
だし、それなりの収入になったので止める気持ちはな
りませんでした。

そういうことで、学校放課後の珠算部活動、自分の塾
と、けっこう忙しい高校生活を送ったわけです。

高校時代の主な個人成績は、

一年生の時

日本商工会議所主催国民大会「読上暗算」三等。東京都
商業研究会主催東京都高校大会「見取暗算」一等。

二年生の時

専修大学主催全国高校大会「暗算」三等。

三年生の時

東京都教育委員会及び東京都商業教育研究会主催東京都高校大会「総合」二等。同「見取暗算」一等。岐阜商業高校主催全国高校大会「読上暗算」一等。

数え切れないほどの生徒が励んでいた珠算の全盛期、大会に出場するのも狭き門、入賞、優勝するのはさらに狭き門、我ながらよくやったと思っています。物がなかった時代なので副賞も楽しみで、半分はそれにつられて頑張ったわけです。当時の子供としては貴重品だったシヤープペンをもらった時の嬉しさは、今でも忘れられません。

特に暗算に熱中しました。暗算は集中力が勝負。超時間やりすぎて、頭を使い過ぎて鼻血が出たことが何度もあり、また夢の中で計算をしていたこともあります。読上暗算の醍醐味は自分の世界に入れることです。目をつむり集中力を研ぎ澄ませると、読み手の声が子守唄のように陶然と耳に入ってきます。それを神経を張り詰めて、頭の中の算盤に入れて行きます。この緊張感のある陶酔感が妙味と思います。「カタツ」とも音がすると集中力が途切れて、後は座っているだけということになります。

四、高校講師から結婚へ

三商珠算部の私の前後数年が集まり「三珠会」と云う親睦会を作っています。かつては《算盤三先生》とか《酒豪三先生》とか称されていた杉原、椎名、長谷川の三先生とも飲み歩きましたが、先生も亡くなられたり高齢になられたり、現在はOBだけで定期的に旧交を温めています。

クラブは計理研究会に入りました。この研究会の顧問は商経学部教授の奥村恒夫先生（故人）で、先生は珠算界の大御所なので、高校時代から名前は知っていました。

計理研究会は珠算研究部と会計学研究部に分かれていて、私は当然、珠算部の方に属しました。

一年先輩に工藤智道さん（元市ヶ谷商業高校教諭）、中川芳明さん（元横浜商工高校教諭）等がおり、一年後輩として宮村大蔵さん（税理士）、大橋繁さん（元横浜創英短期大学女子高校）等が入って来て、私は宮村さん、大橋さんと大会に出掛けました。

大学になると大会が少なくなりますが、ほとんどは3段以上（当時は段位がないので目安）の実力者が出場し、熾烈を極めました。専大のライバルは日大、中大、明大、早大、迎いで、団体でも好成績を続けました。三商から中大に進んだ鈴木さんとも対決したように記憶しています。

ここで思い出すのは、中大の木村勤さんです。木村選手といえば実力ナンバー1、珠算選手で知らない人はいないくらい有名でした。木村さんが四年生、私が二年生の時、一番権威のある東京商工会議所主催の東京都大会の学校の部、読上暗算で決勝対決をしました。

読上暗算も読上算も勝ち残り方式です。問題を一間づつ読んで行きます。最初は易しい問題からだんだん高度な問題になり、途中で一回でも間違ったら、その時点で失格で、最後まで残った選手が1等となります。

問題がかなり高度になって来て、横を見たら木村さんだけでした。木村さんは一〇桁、つまり一〇億の単位の加減算をこなす強兵（つわもの）。一方、私といえばせいぜい七桁の一〇〇万の単位です。勝てるはずもないのに果敢に挑みました。私の記憶によると、決勝問題は五桁から八桁までの加減算を一〇口読んで答えを書くわけですが、案の定、私は六口目くらいで着いて行けず、心の中では「まいった、降参」と白旗を掲げました。今でも語り継がれている木村さんと、形の上だけでも勝負したことは、生涯の思い出です。

それから一二年後の昭和四四年の三月、東京珠算教育連盟主催の指導者講習会で、東洋大学助教授になられて

いた木村さんが講師として「基礎算法の学習指導法―暗算法―（速算法との関連を含めて）」と題して講義をされました。講義が終わってから一時、話をしました。木村さんはその二、三年後に亡くなられたと聞いています。

珠算研究部の練習は週に二日くらい。部には普通科高校を卒業した部員も入って来るので、選手はそういう部員に初歩から教えながら、自分の研鑽にも励んだものです。

二年生の時に全日本学生珠算連盟が設立され、その中心になったのは専大、中大、日大、明大あたりで、珠算研究部の渉外を担当されていた中川芳明さんが、各大学を飛び回っていたのを思い出します。

私は三年生の時に珠算研究部長（昭和三三年度）になり、この年度の計理研究会代表と会計学研究部長を兼任したのが飯田恭久さん（元日本レーベン）でした。

専大主催の全国高等学校珠算競技大会は、実質的には計理研究会が運営をして、大学にとって一大行事だったので、私たち選手も協力し、OBも積極的に、珠算塾を運営されていた新井正さん（昭和二〇卒）、経理専門学校の小沢齊さん（昭和三〇卒）が責任者でした。珠算塾を運営されていた早川欽造さん（昭和三四卒）、工藤智道さん等も責任のある立場で、たいへん活躍されていました。私も卒業後、専大松戸高校の講師になってからも一時的、採点等のお手伝いをしました。

一方、大石珠算塾の方はますます盛況で、よく「生徒を放っておけないから」とか「塾内検定があるから」などと云い、珠算部の活動を抜け出し、授業では後ろの方に座り、塾内検定の採点をしたりしていました。

大学時代の主な個人成績は、

二年生の時

東京商工会議所主催東京都大会「読上暗算」二等（木村さんと決勝）。

日本商工会議所主催国民珠算全国大会「読上算」三等。

全日本学生珠算連盟主催全日本学生珠算競技大会（この大会が第一回大会）読上算1等。同「暗算」2等。同「総合」三等。

三年生の時

川崎市主催全川崎大会「暗算」一等。
全日本学生珠算競技大会「読上算」二等。

四年生の時

東京商工会議所主催東京都大会学校の部「暗算」二等。
選手として一番發揮できるのは二〇歳前後、塾などを
せずに競技だけに絞れば、個人総合で一等になれたかとも
思ってみたり、私の力では精いっぱいだったとも思っ
てみたりです。段位は私が指導者になった後に定められ
たので、認定は受けていませんが、前述した木村さんを
最高位の10段とすると、私は5段くらいかと思いま
す。

昭和三五年、専大創立八〇周年の三月に卒業しまし
た。そこで計理研究会や珠算部とは関係なく同期の有志
と『専大八十会』を作り懇親を深めています。メンバー
は島崎英功さん(元日産自動車)、石井英雄さん(新立
川航空株元取締役)、綱島勝次さん(元桜ヶ丘女子高校
教諭)、鋤田耕作さん(元関東教育経営センター経
営)、佐々木賢逸さん(ビル管理会社)、

川瀬浩司さん(誠工特殊硝子販売株社長)、谷口利民
さん(元朝日機材株)、佐久間浩久さん(元光良ナシヨ
ナル電材株)、宇佐美寿一さん(多摩興産株経営)、楠
利夫(故人)で、以前は旅行をしたりしていましたが、
近年は年一回、もっぱら横浜の中華街で親睦を重ねてい
ます。

大学で商業教科の教職課程を履修した関係で、奥村先
生から開校したばかりの専修大学松戸高校の講師になる
よう薦められ、卒業と同時に講師になりました。専大松
戸高校の開校は昭和三四年四月、私の勤務は翌三五年の
四月からです。計算事務、商業簿記を担当しました。

専大松戸高校は今是有数の進学校で、全クラス進学ク
ラスですが、開校から一〇数年間は就職クラスもあり、
就職に有利なようにと商業関係の科目をおいたわけで
す。私は年度によって異なりますが、週に八時間から一
二時間くらい教えました。塾も経営していたので、無理
を云って午前中に授業を集中してもらいました。

商業の講師としては、私の一年後に松戸第一珠算学校

を経営されていた田中伸幸先生(昭和三三卒)、二年後
には商業の教員として須山登先生(昭和三六卒)が入職
されました。両先生はじめ先生方や職員さんとの交流も
楽しいものでした。専大松戸高校には一四年間、昭和四
九年までお世話になり、田中先生と一緒に辞めました。
須山先生は教員なので、その後も長く勤務されていまし
た。

昭和六〇年から平成三年までの七年間は、野球の強い
関東第一高校で講師を勤め、私も二度、甲子園に応援に
行き血を沸かせました。
塾の方は昭和四七年に千葉県佐倉市の上志津に教室を
出し、その後、佐倉市内に二教室設け、蔵前の教室を入
れると最高時で五三〇名くらいの生徒がいました。

どこの塾もそうですが、圧倒的に小学低学年生が多い
ので、クリスマス会や抽選会を開催し、私が東京珠算教
室連盟の厚生委員をしていたこともあり、連盟主催の遊
園地バス旅行等には、子供たちを引率して積極的に参加
しました。あれもこれも楽しい思い出です。

ところで妻は蔵前の教室に通っていた高校生でした。
就職のために珠算を習いに来ていたのですが、短大卒業
と同時に、私のところに永久就職しました。私が二七
歳、妻が二〇歳でした。妻は長く助手として私を支えて
くれました。

そうこうしているうちに、時代は算盤から電卓に移行
して生徒も減り、私の年齢も高くなってきたので平成三
年、三八年間つづけた塾を閉じました。長い期間なので
生徒もかなりの数にのぼり、私の住んでいる町内会では
現役員の半分くらいはかつての生徒です。隣の町内会
にも多く、台東区議会議員の河野純之佐さんもその一人
です。

珠算を教えていた頃は最高時で、一〇〇軒くらいの電
話番号を記憶していました。

私の場合、番号を頭の中の算盤に置き換えて覚えてい
たわけです。数字ではとても覚えきれませんが、これな
ら頭に算盤が沁み着いているので、億劫ということはお
りません。しかし、その番号が山田さんなのか中村さん
なのか、時々間違えて迷惑を掛けました。

私は現在七二歳、電話番号の算盤記憶も一〇軒くらい



になり、暗算は五桁くらいなら自信がありますが、算盤
の方は早く弾こうとすると老眼で、空振りしたり二つ珠
を跳ばしてみたり、手も震えて早く弾けず、せいぜい2
級くらいです。今は妻が始めたリサイクルショップの会
社の代表者をしています。

校友会台東支部では多くの友人を得ていますが、支部
に誘ってくれたのは、二〇〇七年の統一地方選挙で台東
区議会議員に高位で初当選した石塚猛さん(昭和四十四
年卒)です。なお、この会には台東区長の吉住弘さん
(昭和三十九年卒)も在籍しています。

顧みて、大好きな珠算を通して子供達、専大松戸高校
や関東第一高校の生徒達と人生を歩めたことは幸せとい
うほかありません。

ある旅行について

三商会計人会 会長(第十九期)

増田 昌弘



本文は平成二十一年十月二十日、一泊四食付きの旅行記で、三商会計人会機関紙「都の空(第十三号)」に掲載され記事を本誌に転載したものであります。

平成二十年六月の総会において好川初代会長の後を引き継ぎ第二代会長に就任しました。非力な私と致しましては、事務局の荻野弘康先生、浅野修一先生、母校都立三商の講師としてご苦労いただいております石川昭先生はじめ多くの会員諸兄のご支援ご協力をいただきました。現在頑張っております。

さて都立三商出身者で三商会計人会以外でもいろいろな会合があると存じますが、私は第十九期、昭和二十七年に都立三商を卒業致しました。その第十九期の同期の皆さまで「十九期会」という会を結成しております。毎月十九日に同期の大関さんが経営されております両国駅の近くにある「大関庵」という「そばや」さんで、十九期のメンバーが集まり酒を酌み交わし談笑しております。

メンバーの中に竹内巳喜男さんがおり、彼が所有している軽井沢の別荘「氷園」を開放するから使ってくれ、という申し出を頂き、今年の七月に十九期会の有志で軽井沢へ旅行することとなりました。私も参加する予定でしたが、六月に胆石を患い猛烈な苦痛で、夜中の三時に救急車を呼び病院に運ばれ、約一ヶ月間入院することとなり、残念ながら軽井沢への旅行は参加することが出来ませんでした。

しかしまた十月に軽井沢への旅行の計画がでて、今度は私も参加し有志十名で行くこととなり、勝亦弘さんが十人乗りのレンタカーをチャーターし勝亦さんの運転で、十月二十日午前九時に上野駅公園口を出発した。

まず平安鎌倉時代の豪族、海野氏の氏神である白鳥神

社を参拝した。ここで真田十勇士の一人である海野氏のことを思い出した。そして北国街道信濃十二宿の一つ、海野宿を散策し、昼食に安くて、うまい「うなぎや」で食事をした。食事の後、旧軽銀座を通過して、軽井沢のシンボル三角屋根の教会「聖パウロカトリック教会」を通り、群馬県と長野県にまたがる碓氷峠見晴台に到着した。

素晴らしい景色であり、県境に石柱が並んでおり、私はそこに腰をかけ、左足が群馬県、右足が長野県のポーズで写真を撮ってもらった。そこを出発して群馬県と長野県にまたがる賽銭箱が二つある珍しいお宮熊野神社、皇太子と美智子さまのロマンスで有名な軽井沢会テニスコート、上流社会の社交場だった旧三笠ホテルを通り、軽井沢で一番の紅葉の素晴らしい所と云われている「雲場池」に到着した。この池は川を堰き止めた周囲一キロ程の池で、その日の紅葉は最高だった。後一週間もたつくと終りだとのことであった。そこを出発して軽井沢スケートセンター内に湧く「千ヶ滝温泉」で汗を流し、軽井沢駅の近くにある「アトリエ・ド・フロマージュ」というイタリア料理店で夕食をとり、竹内さんの別荘「氷園」に到着した。

その間勝亦さんはズット運転、我々は席で酒を飲み談笑して行つた。勝亦さんは「おれは運転が好きだから」と云っていたが、それにしても申し訳ないと思つた。またよく道を知っているのに感心した。「氷園」に着いて二

次会というところで、夜が更けるのも忘れ談笑した。



翌日「氷園」を出発して一七八三年浅間山の大噴火で押し出された溶岩によって出来た鬼押出し、標高一、八〇〇メートルにある乳白色の温泉地万座温泉、右も左も素晴らしい大展望で馬の背のような志賀草津高原ルートを通って、横手山展望台

に到着した。ここも素晴らしい景色であった。ここから栗の町「小布施」に行き昼食は栗おこわで舌鼓を打った。昼食後葛飾北斎が絵描いた二十一畳の天井絵「八方睨み鳳凰図」のある岩松院を参拝し、小諸にある農協が経営している「あぐりの湯」で汗を流して一路東京へ帰ってきた。本当に楽しい旅行であった。

ここで「氷園」でお世話になった竹内巳喜男さんの紹介をさせていただく。竹内さんは都立三商から明治大学商学部に入學し、スケート部に入部、男子シングルで学生選手権大会で優勝。オリンピック候補選手となり、その後アイスダンス選手として、一九五五年から一九六四年まで全日本選手権において十連覇を達成した。

そして一九六八年から一九七七年まで日本スケート連盟フィギュア部強化部長を務められ、国際審判員でもあった。強化部長として選手育成のため、自力で一九七二年軽井沢に合宿所兼別荘を建設、竹内さんが三笠宮殿下(昭和天皇の弟君)にスケートをお教えしたこともあり、宮様が当所にお立寄りの折この建物に「氷園」と御名付を賜ったとのこと、宮様と竹内さんが並んで写した写真が「氷園」に飾ってあります。

またオリンピックで優勝した荒川静香さん等多くのスケート選手が毎年この「氷園」に合宿に来たそうです。

アメリカのオリンピック代表選手だったジャネット・リンさんと竹内さんが二人で並んで写した写真も飾ってあり、一九七一年にフランスのリヨンで彼女と竹内さんがダンスを踊っている写真をテレホンカードにしてあり、先日私がその貴重なテレホンカードを頂き、現在大切に金庫の中に保管している。

またアメリカの有名な女優マリリン・モンローさんと二人で写した写真もありました。

この様に一芸に秀れた竹内巳喜男さんが母校三商出身であり、しかも私と同期であることに誇りを感じております。これからも益々お元気の後進の指導に当たって頂くことを祈念し、筆を置く次第です。



荒川風景——昭和期と平成期

二十五期 安藤庄市(靖)

最近縁有って、私のふるさとに有る「荒川」を吟行した。
葛飾区の堀切橋の袂から見る五十五年ぶりの荒川は、
一級河川の逞しさと激しい流れは変わっていないかった。
しかし、歳月の流れと七十歳を越えた私の眼には、底深
い人生の明暗と激しい世の変遷を省みた時、暗い情念の
人間の闇が、荒川の曇った青い川の流れに映し出された
様に思う。

昭和十四年誕生から、昭和四十年就職するまでの二十
六年間、私はこの荒川近くの堀切で暮らした。勿論、三
商の高校時代にも時々この川を訪れ、生の慰めと励まし
を色々受けていたと思う。只、若い時の荒川は、風景が
牧歌的で、今より明るかった。川の流れに、人生の希望
や欲望を重ねていた様に思う。

しかし、平成二十年代に二回程再訪した荒川周辺は様
子を一変していた。両岸は整備され、広い運動場や公園
ができていた。何よりも、川の上を縦横に架けられた高
速道路には夥しい車輛の列と音が連なり、現代の東京を
象徴して圧巻だった。

川の流れの様に、止まることのない時代や文化の変
遷、それを眺めている人の幸、不幸を学んだ一生の転
変。やがては死んで行く無常の世の私達に、川の揺るぎ
ない激しい流れは、百年、千年と永遠に続くのでは無い
だろうか。

こんな想いを、私の好きな俳句に托して詠んでみた。

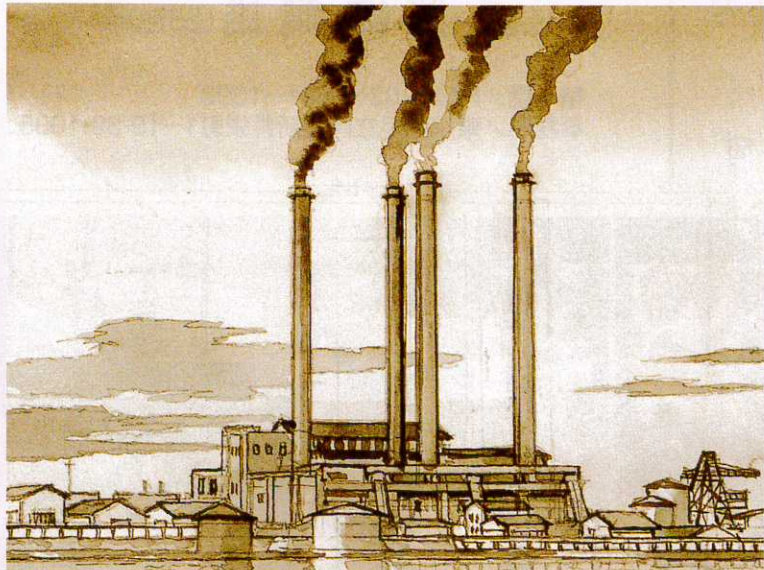
第一部の句群は、私の青春時代。第二部の句群は、七
十歳前後の私の高齢時代である。川をテーマの今昔を詠
んでみて、長生きの命に感謝し、今後も「いつも青春」
の心意気で、意欲的に送って行きたいと思う。

第一部 荒川前期(昭和四十年まで)

戦後の暗さ 土堤の若芽に 洗はれし
自慰青年の 魔羅ら戦後の 空を撃つ(河畔)
見張台を 死刑台と見る 夏の冷え
空けぬし 二十歳の思ひ 雪の川
雪塊 落ちて自殺止めたり 橋の下
校歌うたふ 花の流るる 綾瀬川
水門に つどふ花びら クラス会
雪の橋 くぐりて人を 裏切りし

第二部 荒川後期(平成二十年代)

青銅の 堀切橋に 風光る
鯊と蟹取り あひし友 今は亡し
稲妻や 身投げの橋を 引き裂ける(自殺多き橋)
雁わたる 空に三日月 光りだし
ふるさとへ 鉄橋ひびく 初電車
ビル増えて お化け煙突 影もなし(四本煙突)
夕日夢幻 江戸紫の 帆のすべる
冬川浴ひに 数珠つなぎなり 高速車
冬日射す 塔の半ばの 起重機に
(墨田区の東京スカイツリー)
歳月の 早さに流る 冬の川



— 完 —



Law Office

一橋法律事務所

TEL 042 345 2722
弁護士 越路正巳(22期)

夢をかたちに...




中外徽章株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3丁目2
TEL 03-3294-3431 FAX 03-3294-3436
http://www.chugaikisyo.co.jp
代表取締役副会長 古田勝一(第26期)

「生涯青春で有り続けたい」との願いから、第26期は毎年同期会を開催しております。

第26期 同期会会長 古田勝一



第十五期 同期生一同

お陰さまで全員が今年で満80歳を超えました
今後とも宜しく願ひいたします

世話人一同

TCA

1973年9月創立

東京クラシック愛好家協議会

事務局長(主任解説員)
柴崎晴雄(25期)

電話/FAX 03-5681-1398
事務局/東京都足立区西新井栄町1-19-39-1005

祝 東京文化会館 開館50周年

懇親ソフトボール試合

(2009年11月28日11時05開始)

チーム	1	2	3	4	5	合計
G軍	2	6	0	0	0	8
P軍	1	1	0	0	2	4

G軍：現役野球部員4名、同窓会三浦、杉本、渡邊秀明先生
P軍：現役野球部員3名、天野校長、佐藤副校長、木戸、柴崎

秋日和。双方チーム老若交えての選抜軍を結成、近年では稀な対抗戦であった。珍プレー続出で、次回への課題も残された。



印刷所 日本原色印刷工業株式会社

編集者 東京都墨田区業平一の一七の五 都立三商同窓会事務局 杉本光男

発行責任者 三商同窓会報委員会

発行者 東京都立第三商業高等学校同窓会

三商同窓会報 第四十九号

平成二十二年七月一日発行

ご寄稿・広告掲載のお願い

次号「三商同窓会報」(第50号)にご寄稿をお待ちいたします。また、同窓会名簿の発刊に換え、下記要綱により、広告掲載の募集も行いますので、奮ってお申込み下さい。(原稿締切日は毎月5月31日です。)

お問合せ・お申込みにつきましては、左記の「同窓会事務局(編集者)」にて承ります。

サイズ	天地 × 左右	紙面	広告料金
A	60mm × 95mm	8分の1ページ	5,000円
B	120mm × 95mm	4分の1ページ	10,000円
C	120mm × 190mm	2分の1ページ	15,000円
その他 個人名刺広告	60mm × 45mm	16分の1ページ	3,000円